

Canon

ワイヤレスファイルトランスミッター

WFT-E7 (Ver.2)

for EOS 5D Mark IV

この使用説明書は、WFT-E7 (Ver.2) のファームウェアが Ver.1.3.0 以上であることを前提に説明しています。



使用説明書

はじめに

本機でできること

本機は、カメラに取り付けることでLAN機能を使用できるEOSカメラ用アクセサリです。

本機のLAN機能を使用すると、以下のことができます。



FTP転送

FTPサーバーへの画像転送



EOSUtility

EOS Utilityでリモート撮影と
画像の閲覧／取り込み



WFTserver

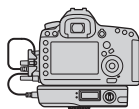
Webブラウザでリモート撮影と
画像の閲覧／取り込み



連動撮影

カメラ間時刻同期

- センダーカメラに連動させて、レシーバーカメラを無線でリリース
- 同じ機種同士で時刻を同期





本使用説明書の表記について


- 本機は、世界各地域の電波に関する法律に準拠するため、使用可能な地域別に5種類のタイプ（A/B/C/D/Eタイプ）を販売しています（別紙参照）。本書の製品名称では、A/B/C/D/Eタイプを付けずに「WFT-E7（Ver.2）」として説明しています。
- 本書では、LAN接続を中継する無線LANアクセスポイントや無線LANルーターなどを、「アクセスポイント」と表記しています。
- 本書は、LAN や FTP サーバーの環境が整っていることを前提に説明を行っています。これらの環境を整える方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。
- カメラの操作については、カメラの使用説明書をお読みになり、操作方法を理解していることを前提に説明しています。

本文中の絵文字について

〈〉：メイン電子ダイヤルを示しています。


〈〉：サブ電子ダイヤルを示しています。


〈〉：マルチコントローラーを示しています。

〈SET〉：設定ボタンを示しています。

* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

(p.**)：参照ページを示しています。

：使用する際に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

：補足説明や補足事項を記載しています。

操作説明の前提について

- 電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。

- 画像転送やリモート撮影、画像の閲覧などを行うためには、LANとFTPサーバーの設定方法に関する十分な知識が必要です。LANとFTPサーバーの設定方法に対して、弊社ではサポートできませんので、あらかじめご了承ください。
- 本機を使用するために、FTP サーバーを含むネットワークに対して、誤った設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、本機を使用した結果生じた損害に対しましても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。
- LAN 機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

章目次

	はじめに	2
1	ネットワークの基本設定	17
2	FTPサーバーへの画像転送	33
3	EOS Utilityでリモート操作	51
4	WFTサーバーでリモート操作	55
5	連動撮影する	71
6	カメラ間時刻同期	85
7	接続の終了と再接続	91
8	接続設定の確認と操作	95
9	トラブルシューティング	107
10	資料	129

目次

はじめに	2
本使用説明書の表記について	3
章目次	5
安全上のご注意	8
各部の名称	10
電池を入れる／取り出す	12
家庭用電源を使用する	14
カメラに接続する	15
1 ネットワークの基本設定	17
事前準備	18
接続ウィザードを表示する	21
アクセスポイントの種類を確認する	23
WPS（PBC 方式）で接続する場合	24
WPS（PIN 方式）で接続する場合	25
検出したネットワークに手動で接続する場合	27
IP アドレスを設定する	30
2 FTP サーバーへの画像転送	33
FTP サーバーの接続設定を行う	34
1 枚ずつ転送する	39
まとめて転送する	44
キャプション付きで転送する	48
転送された画像を見る	49
3 EOS Utility でリモート操作	51
EOS Utility の接続設定を行う	52
EOS Utility を使う	54
4 WFT サーバーでリモート操作	55
WFT サーバーの接続設定を行う	56
WFT サーバーを表示する	58
画像を閲覧する	61
リモート撮影する [詳細撮影]	63
リモート撮影する [簡易撮影]	68
連動撮影との連携	70

5	連動撮影する	71
	簡単な連動撮影	72
	カメラを配置する	76
	WFT サーバーとの連携	78
6	カメラ間時刻同期	85
	時刻同期の準備	86
	時刻を同期させる	87
7	接続の終了と再接続	91
	接続を終了する	92
	再接続する	93
8	接続設定の確認と操作	95
	接続設定画面を表示する	96
	設定を変更する	98
	設定内容の保存と読み込み	102
	機能設定画面について	104
9	トラブルシューティング	107
	エラー表示の対応	108
	無線機能での注意事項	125
	セキュリティについて	127
	ネットワークの設定を確認する	128
10	資料	129
	キャプションの作成と登録	130
	IP アドレスを手動で設定する場合	132
	ブラケット（別売）を使う	134
	主な仕様	135
	索引	139

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。



警告

下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、液漏れ、破裂の原因となりますので次のことはしないでください。
 - ・ 本体・付属品・接続ケーブル等の接点部に金属を差し込むこと。
- 可燃性ガスの雰囲気の中で使用しないでください。爆発、火災の原因となります。
- 落下等により機器内部が露出した際は、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 分解、改造しないでください。内部には高電圧部があり感電の危険があります。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因となります。
- 飛行機内・病院で使用の際は、航空会社・病院の指示に従ってください。本機器が出す電磁波が計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合は、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。



注意

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性及び物的損害の発生が想定されます。

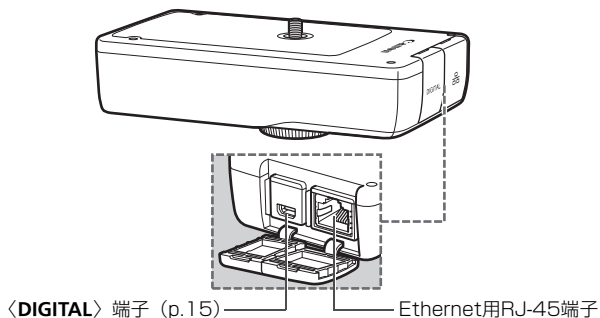
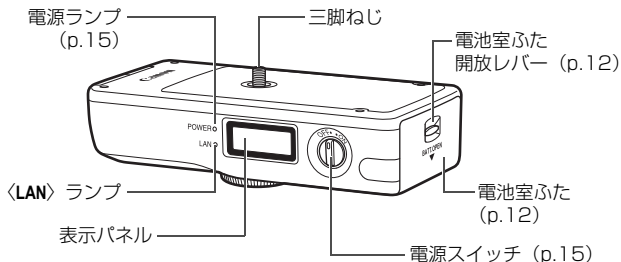
- 高温状態の車中や熱いものの近くに放置しないでください。製品自体が高温になり、触ると火傷の原因になることがあります。
- 製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因となることがあります。
- 製品を布でおおったり、包んだりして使用しないでください。熱がこもり火災の原因となることがあります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を製品の洗浄に使用しないでください。火災や健康障害の原因となることがあります。

故障・不具合・破損の際は、お求めになった販売店、または別紙の修理問合せ専用窓口にご相談ください。

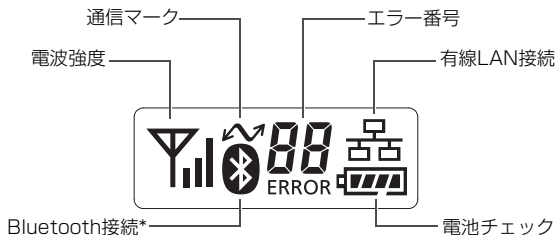
取り扱い上のご注意

- 本製品は精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- 本製品は防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- 本製品を磁石やモーターなどの強力な磁気を発生させる装置の近くに、絶対に置かないでください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。本製品の故障の原因となることがありますので、このような場所に本製品を放置しないでください。
- 本製品は有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。
- 本製品の保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

各部の名称

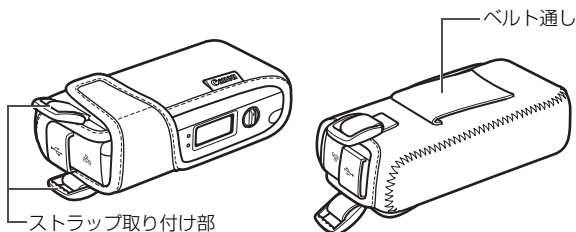


表示パネル



* EOS 5D Mark IVではBluetooth接続機能は使用できません。

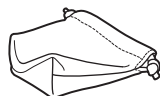
ケース他



ケーブル抜け
防止キャップ



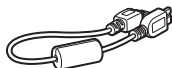
ケース用ストラップ



三脚ねじ収納ケース

インターフェースケーブル

EOS 5D Mark IVとの接続用



IFC-40AB II (約40cm)



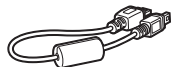
USB3.0 マイクロB



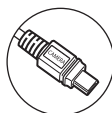
IFC-150AB II (約1.5m)

USB2.0 ミニB形状の端子を備えたカメラとの接続用

(EOS 5D Mark IVとの接続では使用しません)



IFC-25AB (約25cm)



USB2.0 ミニB



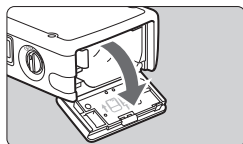
IFC-150AB (約1.5m)

電池を入れる／取り出す

本機の電源として、バッテリーパックLP-E6N（またはLP-E6）を1個使用します。本機の電池を交換するときは、本機の電池室ふたを開ける前に必ず本機の電源スイッチを〈OFF〉にしてください。

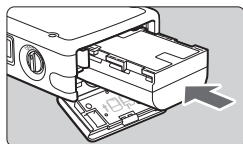
なお、電池と充電器は付属していませんので、お持ちでないときは、別途お買い求めください。

入れ方



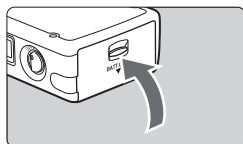
1 ふたを開ける

- レバーを押し下げて、ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。



3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。



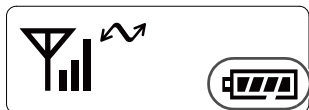
- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRC のホームページをご参照ください。

ホームページ： <http://www.jbrc.com>

- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

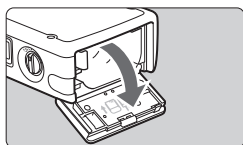
電池チェックについて

電池の残量は、本機の電源スイッチを〈ON〉にしたときに表示されます。電池マークが点滅（点滅）したら、もうすぐ電池切れになります。



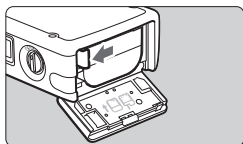
表示						
残量 (%)	100~70	69~50	49~20	19~10	9~1	0

取り出し方



1 ふたを開ける

- レバーを押し下げて、ふたを開きます。

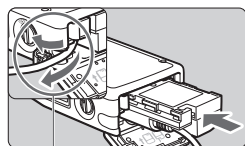


2 電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印の方向に押し、ロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

家庭用電源を使用する

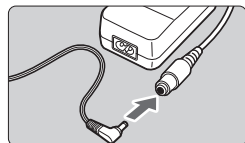
DCカプラー DR-E6（別売）とACアダプター AC-E6N（別売）を使用すると、家庭用電源を本機の電源として使うことができます。



DCカプラーコード
通し部

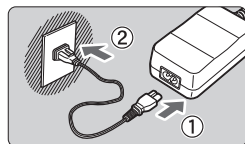
1 DCカプラーを入れる

- 電池室ふたを開け、DCカプラーコード通し部のカバーを開きます。
- DCカプラーをロック位置までしっかりと入れ、コードを通し部に入れます。
- ふたを閉じます。



2 DCカプラーのプラグを接続する

- DCカプラーのプラグと、ACアダプターのコネクタをしっかりと接続します。



3 電源コードを接続する

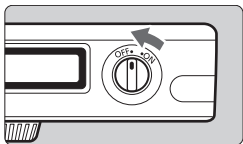
- 電源コードを図のように接続します。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

- ⚠
- 電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードやDCカプラーのプラグの抜き差しを行わないでください。
 - 本機とカメラそれぞれに家庭用電源を接続して、同時に使用しないでください。周辺の電子機器に影響を及ぼす可能性があります。詳しくは、弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。

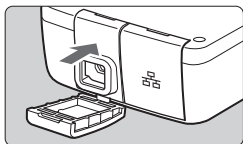
🔌 ACアダプターキット ACK-E6（別売）を使用することもできます。

カメラに接続する

本機とカメラの接続には、必ず本機に付属しているインターフェースケーブルをお使いください。

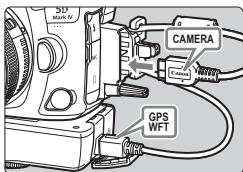


- 1** 本機とカメラの電源スイッチを
〈OFF〉にする



- 2** 本機の〈DIGITAL〉端子にキャップ
を取り付ける


- ケーブル抜け防止キャップを本機に取り付けます。




- 3** 本機とカメラを接続する

- インターフェースケーブルは IFC-40AB IIかIFC-150AB IIを使用してください。
- ケーブルプロテクターをカメラに取り付け、ケーブルをクランパーに通します。
- ケーブルプロテクターの使い方については、カメラの使用説明書を参照してください。

- 4** 本機とカメラの電源スイッチを
〈ON〉にする

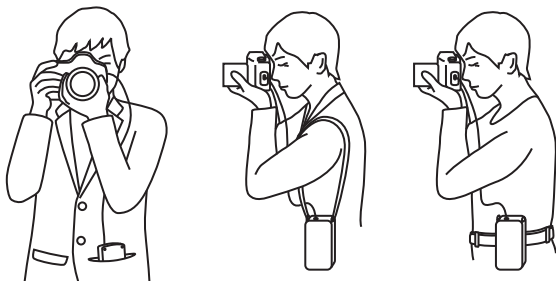
- ➡ 本機の〈POWER〉ランプが点灯し、本機の表示パネルに〈〉が表示されます。

- ケーブルは、本機とカメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから抜いてください。
- ライブビュー撮影や動画撮影時に、本機の電源 ON/OFF や接続ケーブルの抜き差しをすると、ライブビュー撮影と動画撮影が終了します。
- 無線機能の使用中は、内蔵マイク／外部マイクにかかわらずノイズが録音されることがあります。動画撮影中は無線機能を使用しないことをおすすめします。

 本機の〈POWER〉ランプが点滅する場合は、本機とカメラが正しく接続されていません。接続を確認してください。

ケースとストラップの使用例

IFC-150AB IIを使用して、本機とカメラを接続します。



1

ネットワークの基本設定

カメラの液晶モニターに表示されるメニュー画面を使用して、ネットワークの基本設定を行います。

事前準備

● [FTP転送]

撮影した画像をFTPサーバーに転送することができます。

撮影時に自動転送できるほか、撮影後に画像を選択して転送することもできます。

使用できるパソコンのOSについて

[FTP転送]を使用するためには、以下のOSがインストールされたパソコンが必要です。また、そのパソコンをあらかじめFTPサーバーとして機能させておく必要があります。

- ・ Windows 10 (ver.1607以降)
- ・ Windows 8.1、Windows 8.1 Pro

パソコンをFTPサーバーとして機能させる方法については、お使いの機器の各メーカーへお問い合わせください。

● 【EOSUtility】

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityで行うリモート撮影を、LANで行うことができます。

インターフェースケーブルの代わりにLANを利用する仕組みなので、リモート撮影だけでなく、EOS Utilityで行うことができる、ほぼすべてのカメラ操作が可能です。

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityがインストールされたパソコンが必要です。

● 【WFTserver】

Webのホームページにアクセスする感覚で、パソコンやスマートフォンなどのWebブラウザから本機に接続し、本格的なリモート撮影や、カメラ内の画像の閲覧を行うことができます。

ブラウザについて

本機は下記のOSとWebブラウザで動作確認を行っています。ご使用の環境によって動作が異なる場合があります。

- Windows 8.1, Windows 7 : Google Chrome Ver. 44
- Windows 8.1, Windows 7 : Internet Explorer 11
- OS X (OSバージョン10.10) : Safari Ver. 8.0
- iOS (OSバージョン8.4) : Safari
- Android (OSバージョン4.4) : Google Chrome

* 上記のOSとWebブラウザでの動作は、すべての端末に対して保証するものではありません。

* WebブラウザでCookieを無効にしていると、使用できません。

* WebブラウザでJavaScriptを使用しない設定にしていると、使用できません。

* WebブラウザがHTML 5に対応していないときは、動画の再生はできません。

●【連動撮影】

WFTシリーズを取り付けて連動撮影ができるカメラを使用して、複数のカメラで連動撮影することができます。この機能は、リリースを行うセンサーカメラに対し、10台までのレシーバーカメラを連動させることができます。なお、センサーカメラのリリースからレシーバーカメラの撮影までは、若干のタイムラグが生じます。また、動画撮影には対応していません。

ここから先の操作は、71ページを参照してください。

●【カメラ間時刻同期】

センサーカメラの時刻を、最大10台までのレシーバーカメラに設定することができます。ただし、時刻同期を行っても、センサーカメラとレシーバーカメラで時刻誤差が生じます。

WFT-E7シリーズを取り付けた同じ機種のカメラを複数用意します。

ここから先の操作は、85ページを参照してください。

アクセスポイントを使用して接続する場合

アクセスポイントを使用して接続する場合は、あらかじめ、接続する機器をアクセスポイントに接続しておいてください。

📌 動画の無線LAN転送について

動画は1ファイルあたりの容量が大きく、無線LANでは大容量ファイルの送信に時間がかかります。125ページの記載内容を参考にして、各機器がアクセスポイントや本機と安定して通信できる環境を構築しておいてください。

接続ウィザードを表示する

この項では、接続操作ガイドの流れに沿って説明します。途中、エラーが表示されたときは、9章の『トラブルシューティング』(p.107)を参照して、設定内容を見直してください。

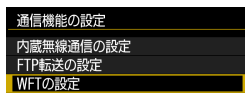
- 接続操作ガイドでの設定中にシャッターボタンなどを押すと、接続操作ガイドが終了しますので、設定が終わるまでシャッターボタンなどを押さないよう注意してください。

1 本機の電源スイッチを〈ON〉にする



2 [通信機能の設定] を選ぶ

- [4] タブの[通信機能の設定]を選び〈SET〉を押します。



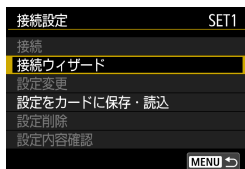
3 [WFTの設定] を選ぶ



4 [接続設定] を選ぶ



5 [SET*] を選ぶ



6 【接続ウィザード】を選ぶ

- 本機の〈LAN〉ランプが緑色に点滅します。



7 通信方法を選ぶ

- 18 ページを参考にして、通信方法を選びます。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



8 LANの種類を選ぶ

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。

【無線LAN】を選んだ場合

- [ネットワークを選択] 画面が表示されます。ここから先の操作は、23 ページを参照してください。

【有線LAN】を選んだ場合

- [IPアドレス設定] 画面が表示されます。ここから先の操作は、30 ページを参照してください。
- LANケーブルは、カテゴリー 5e以上の「STP ケーブル」を使用してください。(STP : Shielded Twisted Pairの略)

アクセスポイントの種類を確認する

アクセスポイントを使用して接続するときは、お使いのアクセスポイントが、Wi-Fi機器同士を簡単に接続することができるWPS*に対応しているか確認してください。

お使いのアクセスポイントがWPSに対応しているか分からないときは、アクセスポイントの使用説明書などを参照して確認してください。

* Wi-Fi Protected Setup (ワイファイ プロテクトド セットアップ) の略

● WPSに対応している場合

下記の2種類の接続方法が選択できます。WPS (PBC方式) の方が簡単に接続できます。

- ・ WPS (PBC方式) で接続する場合：p.24からの操作を行ってください。
- ・ WPS (PIN方式) で接続する場合：p.25からの操作を行ってください。

● WPSに対応していない場合

- ・ 検出したネットワークに手動で接続する場合：p.27からの操作を行ってください。

アクセスポイントの暗号化について

本機は、下記の【認証方式】と【暗号化の設定】に対応しています。そのため、検出したネットワークに手動で接続する場合は、アクセスポイントの暗号化は、下記のいずれかの設定になっている必要があります。

- 【認証方式】：オープン、共有キー、WPA/WPA2-PSK
- 【暗号化の設定】：WEP、TKIP、AES



- アクセスポイントのステルス機能を有効にしていると、接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。
- ネットワーク管理者がいるネットワークに接続するときは、ネットワーク管理者に設定の詳細をお問い合わせください。



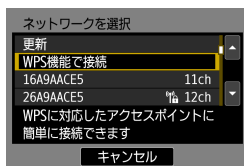
お使いのネットワークでMACアドレスのフィルタリングをしているときは、アクセスポイントに本機のMACアドレスを登録してください。MACアドレスは【機能設定】画面 (p.104) で確認できます。

WPS（PBC方式）で接続する場合

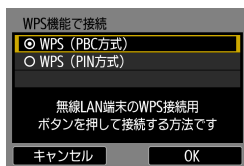
この項では23ページからの続きを説明しています。

WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PBC方式（プッシュボタン接続方式）では、アクセスポイントのWPS用ボタンを押すことで、カメラとアクセスポイントを簡単に接続することができます。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼働していると、うまく接続できないことがあります。このような場合は、[WPS(PIN方式)]で接続してください。
- アクセスポイントに付いているWPS用ボタンの場所を、あらかじめ確認しておいてください。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

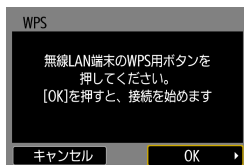


1 【WPS機能で接続】を選ぶ



2 【WPS（PBC方式）】を選ぶ

- [OK] を選んで〈ⓈET〉を押すと、次の画面に進みます。



3 アクセスポイントに接続する

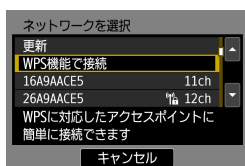
- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。ボタンの場所とボタンを押す時間は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- [OK] を選んで〈ⓈET〉を押すと、アクセスポイントとの接続を開始します。
➔ アクセスポイントとの接続が完了すると、[IPアドレス設定] 画面 (p.30) が表示されます。

WPS (PIN方式) で接続する場合

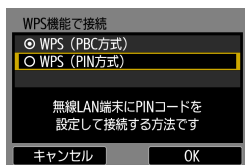
この項では23ページからの続きを説明しています。

WPSに対応したアクセスポイント使用時の接続方法です。PIN方式（ピンコード接続方式）では、カメラが指定する8桁の識別番号をアクセスポイントに設定して接続します。

- 周囲に複数のアクセスポイントが稼動している状況でも、共通の識別番号で比較的確実に接続することができます。
- 接続開始から完了まで1分程度かかる場合があります。



1 [WPS機能で接続] を選ぶ



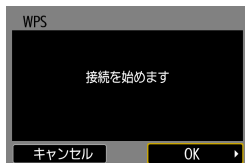
2 [WPS (PIN方式)] を選ぶ

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



3 PINコードを設定する

- カメラの液晶モニターに表示される8桁のPINコードをアクセスポイントに設定します。
- アクセスポイントへのPINコードの入力方法は、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- PINコードを設定したら [OK] を選び、〈SET〉を押します。



4 アクセスポイントに接続する

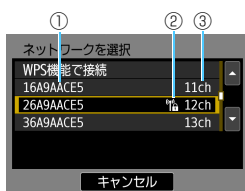
- [OK] を選んで 〈SET〉 を押すと、アクセスポイントとの接続を開始します。
- ➔ アクセスポイントとの接続が完了すると、[IPアドレス設定] 画面 (p.30) が表示されます。

検出したネットワークに手動で接続する場合

この項では23ページからの続きを説明しています。

近くで稼働中のアクセスポイントの一覧から、接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を選んで接続します。

アクセスポイントを選ぶ



1 アクセスポイントを選ぶ

- ◯(🔒) を回して、アクセスポイントの一覧から、接続するアクセスポイントを選びます。

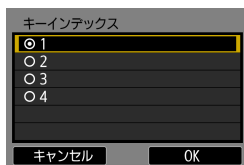
- ①SSIDを表示
- ②アクセスポイントが暗号化されているときはアイコンを表示
- ③使用しているチャンネルを表示

【更新】と【手動設定】について

- 【更新】や【手動設定】は、手順1の画面をスクロールすると表示されます。
- 【更新】を選ぶと、アクセスポイントを再検索します。
- 【手動設定】を選ぶと、手動でアクセスポイントに関する設定を行うことができます。仮想キーボードでSSIDを入力してから、表示される内容に従って設定してください。

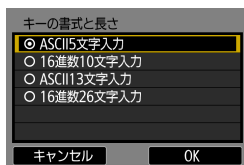
アクセスポイントの暗号キーを入力する

- アクセスポイントに設定されている暗号キー（パスワード）を入力します。設定されている暗号キーについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順2～4で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順2～4が表示されずに、[IPアドレス設定] 画面が表示されたときは、30ページに進んでください。



2 キーインデックスを選ぶ

- [キーインデックス] の画面は、アクセスポイントの暗号方式がWEPのときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選び、〈SET〉を押します。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



3 キーの書式と長さを選ぶ

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



4 暗号キーを入力する

- 仮想キーボード (p.29) で暗号キーを入力し、〈MENU〉ボタンを押します。
- ➔ アクセスポイントとの接続が完了すると、[IPアドレス設定] 画面 (p.30) が表示されます。

仮想キーボードの操作方法について



● 入力エリアの切り換え

〈Q〉ボタンを押すと、上下の入力エリアが交互に切り換わります。

● カーソルの移動

上側のエリアで〈☉〉または〈※〉を操作すると、カーソルが移動します。

● 文字の入力

下側のエリアで〈☉〉または〈※〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押して文字を入力します。

画面右上の「*/」で、入力した文字数と入力できる文字数を確認することができます。

● 入力モードの切り換え*

下側のエリアの一番右下の「Aa=1@」を選びます。〈SET〉を押すたびに、小文字→数字/記号1→数字/記号2→大文字に切り換わります。

* [タッチ操作:しない] 設定時は、1画面ですべての文字入力ができます。

● 文字の削除

〈☐〉ボタンを押すと1文字消去されます。

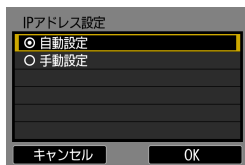
● 入力の終了

〈MENU〉ボタンを押すと、入力を確定して終了します。確認画面が表示されたときは、[OK] を選んで終了します。


● 入力のキャンセル

〈INFO〉ボタンを押すと、入力をキャンセルして終了します。確認画面が表示されたときは、[OK] を選んで終了します。

IPアドレスを設定する



【自動設定】を選ぶ

- [OK] を選んで〈〉を押すと、通信方法に応じた設定画面が表示されます (p.31)。
- [自動設定] でエラーが表示されたときや手動で設定するときは、132ページを参照してください。

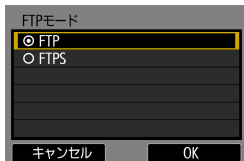


IPアドレスを自動設定するには、DHCPサーバーや、DHCPサーバー機能を持つアクセスポイントやルーターを使用している環境で、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっている必要があります。

通信方法に応じた設定を行う

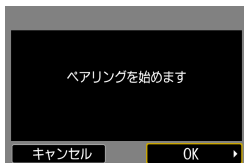
ここからは、通信方法に応じた設定画面になります。選択した通信方法の説明ページをお読みください。

FTP転送



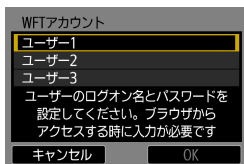
2章 (p.33)

EOSUtility



3章 (p.51)

WFTserver (WFTサーバー)



4章 (p.55)

[illegible]

2

FTP サーバーへの 画像転送

FTPサーバーに接続して、カメラ内の画像をパソコンに転送することができます。

FTP転送では、撮影時にFTPサーバーへ自動転送できるほか、撮影後にまとめて転送することもできます。

- この章では、1章からの続きを説明しています。

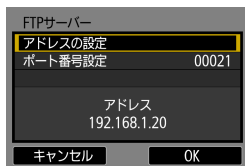
FTPサーバーの接続設定を行う

この項では、1章からの続きを説明しています。



1 FTPモードを選ぶ

- ルート証明書を使用して FTP 転送のセキュリティを行うときは、[FTPS] を選びます。
- ルート証明書の設定については、37 ページを参照してください。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。





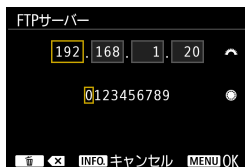
2 [アドレスの設定] を選ぶ

→ 仮想キーボードが表示されます。



3 FTPサーバーのサーバー名、またはIPアドレスを入力する

- IPアドレスを[自動設定]にしているときやDNSアドレスを[手動設定]にしているときは、左の画面が表示されます。
- 画面の操作は、『仮想キーボードの操作方法について』(p.29)を参照してください。
- DNSアドレスを[使わない]設定のときは、左の画面が表示されます。
- 〈〉を回して上側の入力場所を選び、〈〉を回して入力する数値を選びます。〈SET〉を押すと選んだ数値が入力されます。



FTPサーバー

アドレスの設定

ポート番号設定 00021

アドレス
192.168.1.20

キャンセル OK

4 ポート番号を設定する

- [ポート番号設定] は、通常00021を設定します。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。

パッシブモード

☐ 使う

☒ 使わない

キャンセル OK

5 パッシブモードを設定する

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。
- 手順8で「エラー 41：FTPサーバーに接続できません」が表示されたときは、[パッシブモード] を「使う」設定にすると解決することがあります。

プロキシサーバー

プロキシサーバー 使わない

アドレスの設定

ポート番号設定 10021

アドレス
0.0.0.0

キャンセル OK

6 プロキシサーバーを設定する

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。

ログオン方法

☒ 匿名

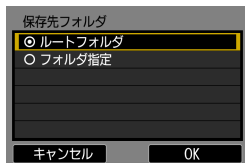
☐ ログオン・パスワード

ログオン名
anonymous

キャンセル OK

7 ログオン方法を設定する

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



8 保存先フォルダを設定する

- [ルートフォルダ] を選択すると、FTPサーバーで設定したルートフォルダの中に保存されます (p.49)。
 - [フォルダ指定] を選択すると、ルートフォルダの中にある保存先フォルダを指定することができます。フォルダがないときは、自動作成されます。
 - [OK] を選んで <SET> を押すと、次の画面に進みます。
- 本機の <LAN> ランプが緑色に点灯します。



9 [OK] を選ぶ

- <SET> を押すと接続の完了画面が表示されます。



10 [OK] を選ぶ

- <SET> を押すと [WFTの設定] 画面に戻ります。
- 設定した内容はカメラに保存されます。本機には保存されません。

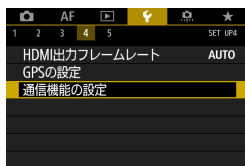
これでFTP転送の接続設定は完了です。

画像転送中は、本機の <LAN> ランプが緑色に点滅します。

FTPS用のルート証明書の読み込み

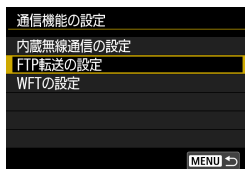
接続設定時に、FTPモードを〔FTPS〕に設定したときは、FTPサーバーと同じルート証明書をカメラに読み込む必要があります。

- カメラに読み込むことができるのは、ファイル名が「root.cer」、
「root.crt」、「root.pem」のルート証明書のみです。
- カメラに読み込むことができるルート証明書ファイルは1つだけです。
あらかじめ、ルート証明書ファイルの入ったカードを入れてから操作してください。

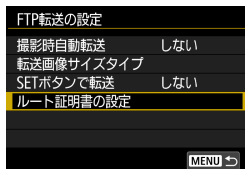


1 〔通信機能の設定〕を選ぶ

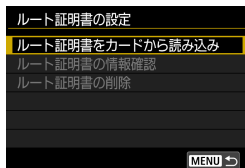
- 〔4〕タブの〔通信機能の設定〕を選びく〔SET〕を押します。



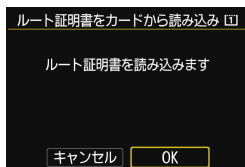
2 〔FTP転送の設定〕を選ぶ



3 【ルート証明書の設定】を選ぶ




4 【ルート証明書をカードから読み込み】を選ぶ



5 【OK】を選ぶ

- ルート証明書が読み込まれます。
- 確認画面で【OK】を選ぶと、【ルート証明書の設定】画面に戻ります。

- 手順4の画面で【ルート証明書の削除】を選ぶと、カメラに読み込んだルート証明書を削除することができます。また、【ルート証明書の情報確認】を選ぶと、発行者や発行先、有効期限などの情報が確認できます。

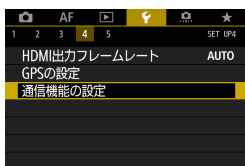
 証明書を読み込むことができるカードは、[📁1:記録機能とカード・フォルダ選択] の [記録・再生] または [再生] で選択しているカードです。

1枚ずつ転送する

撮影時に自動転送する

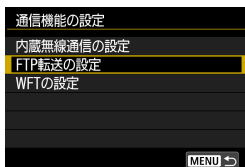
撮影した画像をすぐにFTPサーバーへ自動転送します。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。

- 必ずカードを入れて撮影してください。画像が記録されない状態で撮影すると、画像が転送されません。
- 動画は撮影時に自動転送できません。撮影後、44～48ページで説明している方法で転送してください。

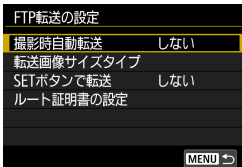


1 [通信機能の設定] を選ぶ

- [f4] タブの [通信機能の設定] を選びく(SET)を押します。

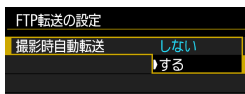


2 [FTP転送の設定] を選ぶ



3 【撮影時自動転送】を選ぶ

- 「する」を選びます。



4 撮影する

- 撮影した画像が FTP サーバーに転送されます。



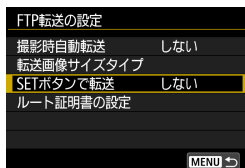
画像転送中に画像を消去することはできません。



- 連続撮影したときは、撮影した順にFTPサーバーへ画像が転送されます。
- 撮影した画像は、カードにも記録されます。
- 転送が中断した画像や転送に失敗した画像は、通信状態が回復すると自動的に再転送されます (p.43)。なお、あとからまとめて再転送することもできます (p.44)。

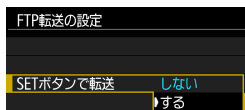
再生して転送する

画像を再生して、〈SET〉を押すだけで転送することができます。なお、転送中も通常どおり静止画撮影を行うことができます。



1 [SETボタンで転送] を選ぶ

- FTP 転送の設定画面で、[SET ボタンで転送] を選びます。
- [する] を選びます。



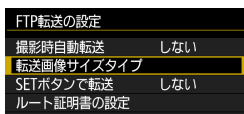
2 画像を選ぶ

- カメラの 〈▶〉 ボタンを押します。
- 転送する画像を選び、〈SET〉を押すとその画像が転送されます。
- 動画は転送できません。動画を選んで〈SET〉を押すと、動画再生パネルが表示されます。

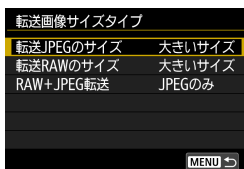
転送する画像のサイズとタイプを設定する

CFカードとSDカードに異なるサイズの画像を同時記録したときや、RAW+JPEGで撮影した画像は、どの画像を転送するかを設定することができます。

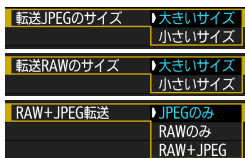
40ページの手順3で「転送画像サイズタイプ」を選ぶと、転送する画像のサイズとタイプを設定することができます。



1 「転送画像サイズタイプ」を選ぶ



2 転送する画像のサイズとタイプを選ぶ



- CFカードとSDカードの一方にJPEG ラージを、もう一方のカードにJPEG スモールを記録する設定で、JPEG スモールの方を転送したいときは、「転送JPEGのサイズ：小さいサイズ」に設定します。
- CFカードとSDカードの一方にRAWを、もう一方のカードにJPEGを記録する設定のときは、「RAW+JPEG転送」の設定で転送する画像を決めます。カード1枚にRAW+JPEG同時記録を行うときも同様に設定します。
- 同じ画像サイズの画像がCFカードとSDカードに同時記録される場合は、[📁] タブの「記録機能とカード・フォルダ選択」で、「記録・再生」または「再生」で選択しているカードに記録される画像が転送されます。

転送失敗画像の自動再転送について



転送に失敗すると、本機の〈LAN〉ランプが赤色に点滅します。この場合は、〈MENU〉ボタンを押して〔44〕タブの〔通信機能の設定〕を選び、〈SET〉を押してください。左図の画面が表示されますので、エラー番号を確認し、108ページを参照してエラーの原因を取り除いてください。

エラーの原因が取り除かれると、転送に失敗した画像が自動的に再転送されます。この自動再転送機能は、撮影時自動転送のときだけでなく、撮影後の画像をFTP転送するときも働きます。なお、転送をキャンセルしたり、本機やカメラの電源を切ったときは、自動再転送されません。44ページを参照して転送してください。



〔機能設定〕画面（p.104）で節電機能を設定すると、FTP転送後、FTPサーバーからログオフしてLAN接続を休止させることができます。

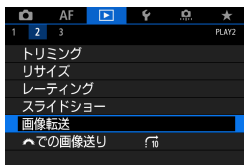
まとめて転送する

撮影後に、複数の画像を任意に選択しての転送や、未転送画像、転送失敗画像の一括転送を行うことができます。また、キャプション（見出し）を付けて画像を転送することができます。

なお、転送中も通常どおりに静止画撮影を行うことができます。

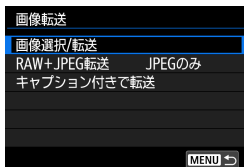
転送する画像を選択する

● 画像選択

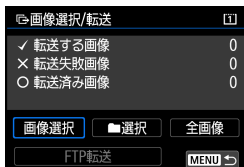


1 【画像転送】を選ぶ

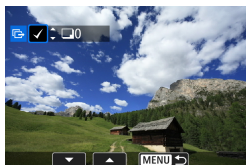
- 【[]2】タブの【画像転送】を選び、<[SET]>を押します。



2 【画像選択/転送】を選ぶ

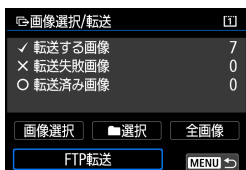


3 【画像選択】を選ぶ



4 転送する画像を選ぶ

- 〈〉を回して転送する画像を選び、〈〉を押します。
- 〈〉を回して画面の左上に〔✓〕を表示させ、〈〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回していくと、3画像表示になります。〈〉を右に回すと、1枚表示に戻ります。
- 他に転送したい画像があるときは、手順4を繰り返します。



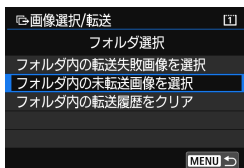
5 画像を転送する

- [FTP転送] を選び 〈〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと、画像が転送されます。
- [■選択] [全画像] で選択した画像も、この操作で転送します。



- 撮影後の動画も転送することができます。
- [画像選択] を選んだときに、画面の左上に表示されるマークで転送履歴を確認することができます（マークなし：未選択画像、✓：転送する画像、×：転送失敗画像、○：転送済み画像）。
- 47ページの [RAW+JPEG転送]、および上記の手順1～4の操作は、FTPサーバーに接続されていない状態でも行うことができます。

● ■ 選択

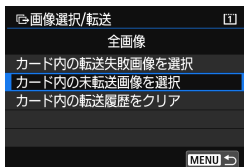


「**■ 選択**」を選び、「**フォルダ内の未転送画像を選択**」を選びます。フォルダを選択すると、そのフォルダに入っている、FTPサーバーに転送していないすべての画像が選択されます。

「**フォルダ内の転送失敗画像を選択**」を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。

「**フォルダ内の転送履歴をクリア**」を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから、「**フォルダ内の未転送画像を選択**」を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

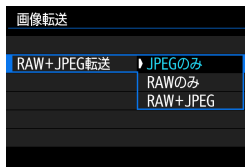
● 全画像



「**全画像**」を選び、「**カード内の未転送画像を選択**」を選ぶと、カードに記録されている、FTPサーバーに転送していないすべての画像が選択されます。

「**カード内の転送失敗画像を選択**」「**カード内の転送履歴をクリア**」の内容は、「**■ 選択**」を参考にしてください。

RAW+JPEGで撮影した画像を転送するとき



RAW+JPEGで撮影した画像は、どの画像を転送するかを設定することができます。

44ページの手順2で「RAW+JPEG転送」を選び、「JPEGのみ」「RAWのみ」「RAW+JPEG」から選びます。

- 「RAW+JPEG 転送」の設定は、「**4**：通信機能の設定」→「FTP転送の設定」→「転送画像サイズタイプ」の「RAW+JPEG転送」の設定と連動して切り換わります(p.42)。

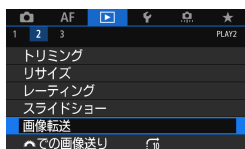


画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

キャプション付きで転送する

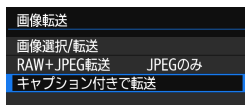
【キャプション付きで転送】を選ぶと、登録したキャプションを画像に付加して、1枚ずつ転送することができます。印刷する枚数などを画像転送先に伝えたいときなどに便利です。なお、カメラに保存された画像にもキャプションが付加されます。

- 画像に付加されたキャプションは、Exif 情報のユーザーコメント欄で確認することができます。
- キャプションの作成／登録方法は、130ページを参照してください。



1 【画像転送】を選ぶ

- [▶2] タブの【画像転送】を選び、〈SET〉を押します。



2 【キャプション付きで転送】を選ぶ

- 最後に再生した画像が表示されます。



3 キャプションを設定する

- 【キャプション】を選んで〈SET〉を押し、表示される画面でキャプションの内容を選びます。



4 【転送】を選ぶ

- 画像がキャプション付きで送信されます。送信が終了すると【画像転送】画面に戻ります。

❗ 【キャプション付きで転送】画面では、画像を任意に選択することはできません。ほかの画像をキャプション付きで転送するときは、その画像を再生してからこの操作を行ってください。

転送された画像を見る

FTPサーバーに転送された画像は、FTPサーバーで設定した下記のフォルダに保存されています。

FTPサーバーの転送先フォルダについて

- FTPサーバーを初期設定で使用しているときは、[Cドライブ] → [lnetpub] フォルダ → [ftproot] フォルダの中に画像、または画像が保存されているフォルダが入っています。
- FTPサーバーの設定で転送先のルートフォルダが変更されているときは、FTPサーバーの管理者に問い合わせてください。

画像が保存されているフォルダについて

初期設定では、FTPサーバーで設定したルートフォルダの中に、「A/DCIM/100EOS5D」というようなフォルダ階層を自動作成して画像を保存します。

なお、記録・再生メディアがCFカードのときは「A/DCIM/100EOS5D」、SDカードのときは「B/DCIM/100EOS5D」というように、フォルダ階層を自動作成して画像を保存します（CFカードの画像はAフォルダ、SDカードの画像はBフォルダに振り分けます）。

[illegible]

3

EOS Utility で リモート操作

EOS Utilityを利用して、カメラ内の画像を閲覧したり、パソコンへ保存することができます。また、EOS Utilityでカメラをリモート操作して撮影したり、カメラの設定を変更することができます。

インターフェースケーブルの代わりにLANを利用する仕組みなので、EOS Utilityで行うことができるほぼすべてのカメラ操作が可能です。

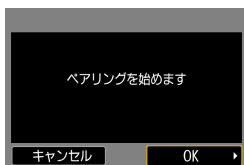
- この章では、1章からの続きを説明しています。
- あらかじめ、パソコンにEOS Utilityをインストールしてから接続設定を行ってください (p.19)。

EOS Utilityの接続設定を行う

この項では、1章からの続きを説明しています。

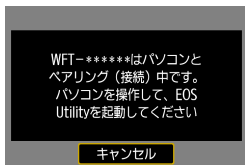
- 接続するためにはパソコンの操作が必要です。詳しくは、パソコンの使用説明書を参照してください。
- ここでは、Windows 8.1の場合を例にして説明しています。

カメラ側の操作-1

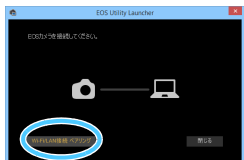


1 [OK] を選ぶ

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「*****」は、本機のMACアドレス下6桁です。



パソコン側の操作



2 パソコンでEOS Utilityを起動する

3 EOS Utilityの[Wi-Fi/LAN接続ペアリング]をクリックする

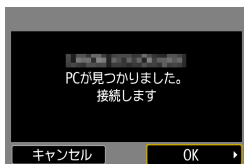
- ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、[はい] を選びます。



4 パソコンで [接続] をクリックする

- 接続するカメラを選択して、[接続] をクリックします。
- 複数のカメラが表示されるときは、カメラの液晶モニターに表示されたMACアドレスで接続するカメラを特定します。
- 本機のMACアドレスは、[機能設定] 画面 (p.104) でも確認できます。

カメラ側の操作-2



5 [OK] を選ぶ

- 手順4で [接続] 操作をしたパソコンが見つかると、左の画面が表示されます。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、接続の完了画面が表示されます。



6 [OK] を選ぶ

- 〈SET〉を押すと [WFTの設定] 画面に戻ります。
- ➔ 本機の〈LAN〉ランプが緑色に点灯します。
- 設定した内容はカメラに保存されます。本機には保存されません。

これでEOS Utilityとの接続設定は完了です。

- 一度ペアリングを行った「本機を取り付けたカメラとパソコンの組み合わせ」で、設定を変えずに使い続ける場合、次回からはペアリングを行う必要はありません。

EOS Utilityを使う

EOS Utilityの操作方法については、EOS Utility使用説明書を参照してください。リモート撮影だけでなく、さまざまなカメラ操作が可能です。



- 接続中は操作できないメニュー項目があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブル接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。

⚠ 警告

長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合は、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

4

WFT サーバーで リモート操作

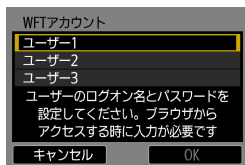
Web ブラウザーを利用して、カメラ内の画像を閲覧したり、パソコンやスマートフォンなどへ保存することができます。また、Web ブラウザーでカメラをリモート操作して撮影したり、カメラの設定を変更することができます。

- この章では、1 章からの続きを説明しています。

WFTサーバーの接続設定を行う

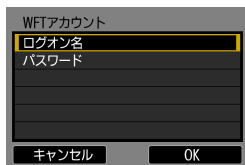
この項では、1章からの続きを説明しています。

パソコンからカメラに接続するための、ログオン名とパスワードを設定します。ここで設定したログオン名とパスワードは、カメラに接続する際に使用します。



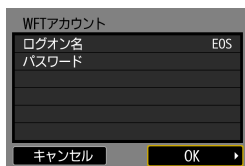
1 [ユーザー*] を選ぶ

- WFTサーバーでは、カメラ1台に対し、3台の機器が接続できます。複数の機器が接続するときは、重複しないユーザー番号を選びます。



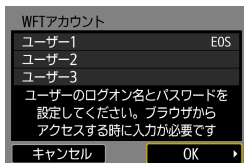
2 [ログオン名] または [パスワード] を選ぶ

- 仮想キーボードが表示されます。29ページを参照してログオン名とパスワードを入力します。



3 [OK] を選ぶ

- ログオン名とパスワードを設定したら、[OK] を選んで〈SET〉を押します。
- 手順1の画面に戻ります。
- ユーザーを追加するときは、手順1～3を繰り返します。



4 [OK] を選ぶ

- [OK] を選んで <SET> を押すと、接続の完了画面が表示されます。



5 [OK] を選ぶ

- <SET> を押すと [WFTの設定] 画面に戻ります。
- 設定した内容はカメラに保存されます。本機には保存されません。

これでWFTサーバーとの接続設定は完了です。



WFTアカウントの設定は[機能設定]画面(p.104)で変更することができます。また、ポート番号の設定も[機能設定]画面で変更することができます。なお、通常、ポート番号(80)の変更は必要ありません。

WFTサーバーを表示する

Webブラウザに本機の操作画面「WFTサーバー」を表示します。あらかじめカメラとパソコンやスマートフォンなどをLANで接続しておきます。

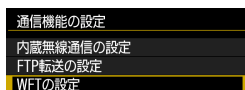
カメラのIPアドレスを確認する

Webブラウザからカメラに接続するためには、手順6で表示されるカメラのIPアドレスを、WebブラウザのURL入力欄に設定する必要があります。



1 【通信機能の設定】を選ぶ

- [4] タブの [通信機能の設定] を選び、**SET** を押します。



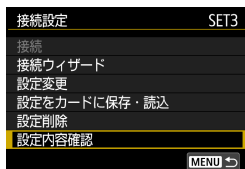
2 【WFTの設定】を選ぶ



3 【接続設定】を選ぶ

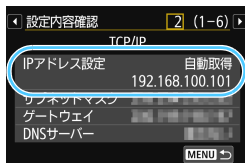


4 【SET* WFTserver】を選ぶ



5 「設定内容確認」を選ぶ

→ 設定内容が表示されます。



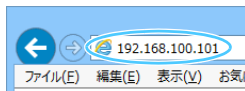
6 設定内容を確認する

- 〈〉を回してページを切り換えます。
- IPアドレスを書きとめておきます。
- 確認したら、〈MENU〉ボタンを押して確認画面を終了します。

WFTサーバーにログインする

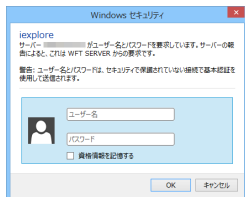
7 Webブラウザを起動する

- パソコンやスマートフォンなどのWebブラウザを起動します。



8 URLを入力する

- URLの入力欄に、手順6で書きとめたIPアドレスを入力します。
- 〈Enter〉キーを押します。

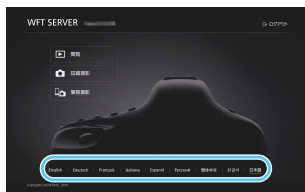


9 【ログオン名】と【パスワード】を入力する

- 56ページで設定した【ログオン名】（ユーザー名）と【パスワード】を入力します。
- 【OK】を押すとWFTサーバーの画面が表示されます。

10 言語を選択する

- 画面下側の言語を選択します。



- Web ブラウザーがJavaScriptに非対応のときは、WFTサーバーは使用できません。
- 接続中は操作できないメニュー項目があります。

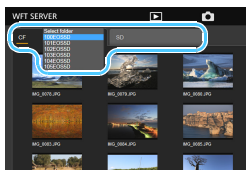
画像を閲覧する

カメラ内のカードに入っている画像を閲覧することができます。



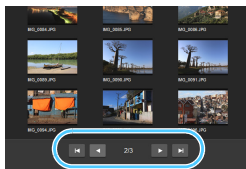
1 【▶ 閲覧】を押す

➔ 画像の閲覧画面が表示されます。



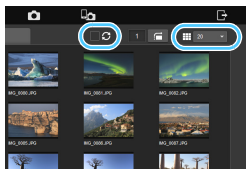
2 カードとフォルダを選ぶ

- [CF] か [SD] のタブでカードを選びます。
- 選んだタブの右側にあるフォルダ名を選ぶと、プルダウンでフォルダを選択することができます。







3 画像を選ぶ

- 別の画像を見るときは、画面の下側の [◀ ▶] / [◀ ▶] で画面を切り換えることができます。
- 1画面に表示するサムネイル画像の数を、右上のプルダウンで設定することができます。
- [📁] の横のチェックボックスに [✓] を付けると、画面が定期的に更新されます。
- 動画はファイル名の横に [MOV] または [MP4] が表示されます。



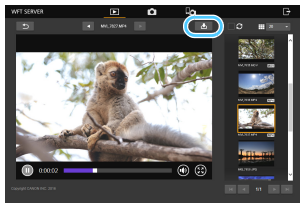
4 画像を取り込む

- サムネイル画像を選ぶと、画像が大きく表示されます。
- [] を押すと、画像を取り込むことができます。
- [] [] を押すと、前後の画像を表示することができます。
- [] を押すと、画像閲覧画面に戻ります。

静止画の再生画面



動画の再生画面



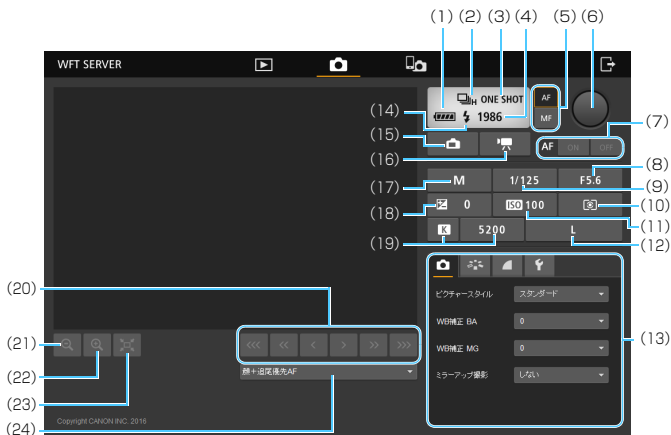
❗ パソコンやスマートフォンの性能や、使用するブラウザーなどによっては、「映像が表示できない」「映像の表示速度が遅い」「画像を機器に取り込むことができない」場合があります。

リモート撮影する【詳細撮影】

WFTサーバーでリモート撮影を行うことができます。




- 1 【📷 詳細撮影】を押す
→ 詳細撮影画面が表示されます。




- | | |
|------------------|-------------------------|
| (1) 電池チェック | (13) メニュー |
| (2) ドライブモード | (14) ストロボ充電完了 |
| (3) AFモード | (15) 静止画ライブビュー撮影ボタン |
| (4) 撮影可能枚数 | (16) 動画撮影ボタン |
| (5) AF/MF切り換えボタン | (17) 撮影モード |
| (6) シャッターボタン | (18) 露出補正 |
| (7) AFボタン | (19) ホワイトバランス |
| (8) 絞り数値 | (20) マニュアルフォーカスボタン |
| (9) シャッター速度 | (21) 縮小ボタン |
| (10) 測光モード | (22) 拡大ボタン |
| (11) ISO感度 | (23) ライブビュー映像サイズ切り換えボタン |
| (12) 記録画質 | (24) AF方式 |

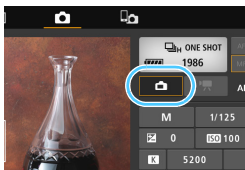
2 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉に設定する

- 「(6) シャッターボタン」を押して、「離すと」AFが行われ撮影されます。

- 「(2) ドライブモード」は、カメラに設定されているドライブモードを表示しています。カメラのドライブモードが連続撮影になっていても、リモート撮影では1枚撮影になります。
- カメラのライブビュー撮影／動画撮影スイッチが〈〉のときは、静止画撮影はできません。
- フリッカーレス撮影は [しない] に自動設定されます。
- ミラーアップ撮影が [しない] 以外に設定されているときは撮影できません。「(13) メニュー」で [しない] に設定にしてください。

 ワンショットAFでは、ピントが合わないとは撮影されません。ライブビュー映像を表示して、手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。

ライブビュー映像を表示して撮影する



1 ライブビュー映像を表示する

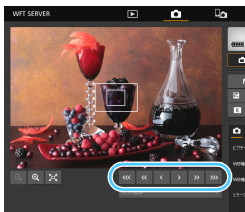
- 「(15) 静止画ライブビュー撮影ボタン」を押します。



② ピントを合わせる

自動でピントを合わせる場合

- 「(7) AFボタン」で[ON]を押すとAFが行われます。



手動でピントを合わせる場合

- 〈 ≪ ≫ 〉 〈 ≪ 〉 〈 ≪ 〉 〈 ≫ 〉 〈 ≫ ≫ 〉 〈 ≫ ≫ ≫ 〉 を押してピント合わせを行います。
 〈 ≪ ≪ ≫ 〉 〈 ≪ ≫ 〉 〈 ≪ ≫ 〉 は近距離側、〈 ≫ ≫ ≫ 〉 〈 ≫ ≫ ≫ ≫ 〉 は遠距離側にピントが移動します。
- ピントの移動量は3段階から選ぶことができます。
 〈 ≪ ≪ ≫ 〉 〈 ≫ ≫ ≫ 〉 : 大
 〈 ≪ ≫ ≫ 〉 〈 ≫ ≫ ≫ ≫ 〉 : 中
 〈 ≪ ≫ ≫ ≫ 〉 〈 ≫ ≫ ≫ ≫ ≫ ≫ 〉 : 小

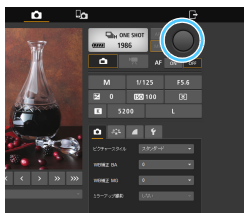


- ライブビュー映像が表示されないときは、「(13) メニュー」でライブビュー撮影ができる設定にしてください。
- ライブビュー映像の応答性を速くしたいときは、「(23) ライブビュー映像サイズ切り換えボタン」を押すと、ライブビュー映像が縮小され、応答性が速くなります。もう一度押すと元のサイズに戻ります。



3 撮影機能を設定する

- 記録画質などの項目を選ぶと、その内容が表示され、設定を行うことができます。
- 必要な設定を行います。

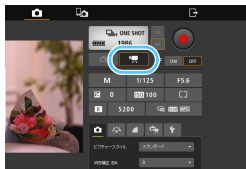


4 撮影する

- 「(6) シャッターボタン」を押して、「離すと」撮影されます。
- ➔ 撮影した画像が表示されます。
- 撮影した画像は、カメラ内のカードに保存されます。
- 画像を取り込むときは、『画像を閲覧する』(p.61) を参照してください。

❗ 複数の機器がアクセスしている状態で撮影を行うと、ライブビュー映像の動きが止まる場合があります。

動画を撮影する



「(16) 動画撮影ボタン」を押すと動画撮影画面が表示されます。

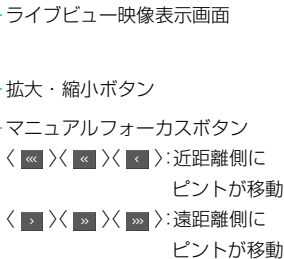
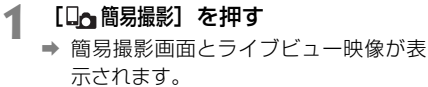
- 設定方法は静止画撮影と同じです。
- 「(6) シャッターボタン」を押して、「離すと」動画撮影が始まります。
- ➔ 動画撮影中は、「(6) シャッターボタン」の表示が赤い [●] から白い [□] に変わります。
- もう一度「(6) シャッターボタン」を押して、「離すと」動画撮影が終了します。

⚠ 警告

長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

11/11/2016



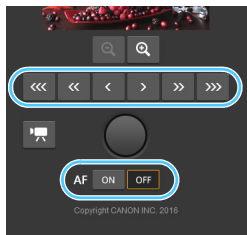
シャッターボタン
AFボタン

ピント移動量

〈 ≪ ≫ 〉:大

〈 ≪ ≫ 〉:中

〈 ≪ ≫ 〉:小



2. ピントを合わせる

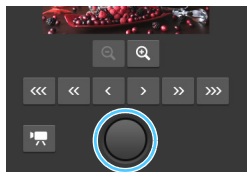
- レンズのフォーカスモードスイッチは、**〈AF〉** に設定しておきます。

自動でピントを合わせる場合

- 「AFボタン」で[ON]を押すとAFが行われます。

手動でピントを合わせる場合

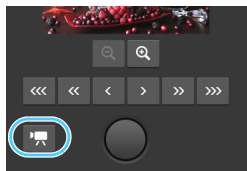
- < <<< > << > < > > >> > >>> >
を押してピント合わせを行います。



3 撮影する

- 「シャッターボタン」を押して、「離すと」撮影されます。
- ➡ 撮影した画像が表示されます。
- 撮影した画像は、カメラ内のカードに保存されます。
- 画像を取り込むときは、『画像を閲覧する』(p.61)を参照してください。

動画を撮影する



【📷】／【🎬】 ボタンを押すと静止画撮影画面と動画撮影画面が切り換わります。

- 設定方法は静止画撮影と同じです。
- 「シャッターボタン」を押して、「離すと」動画撮影が始まります。
- ➡ 動画撮影中は、「シャッターボタン」の表示が赤い [●] から白い [□] に変わります。
- もう一度「シャッターボタン」を押して、「離すと」動画撮影が終了します。

連動撮影との連携

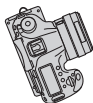
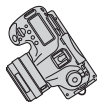
WFTサーバーのリモート撮影と『連動撮影する』(p.71)を組み合わせることができます。また、セNDERカメラやレシーバーカメラのカードに入っている、画像の閲覧や画像の取り込みを行うことができます。

連動撮影

レシーバーカメラ



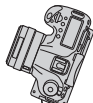
レシーバーカメラ



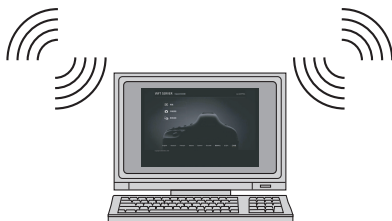
レシーバーカメラ



レシーバーカメラ



セNDERカメラ



WFTサーバー

5

連動撮影する

連動撮影では、リリースを行うセンサーカメラに対し、10台までのレシーバーカメラを無線LANで連動させることができます。

WFTシリーズを取り付けて連動撮影ができるカメラであれば、機種に関係なくレシーバーカメラにすることができます。

なお、センサーカメラのリリースタイミングよりも、少し遅れてレシーバーカメラがリリースします。また、動画撮影には対応していません。



レシーバーカメラ



センサーカメラ

簡単な連動撮影

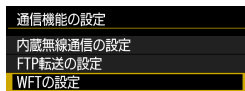
センサーカメラとレシーバーカメラを連動させて、簡単な連動撮影を行います。

レシーバーカメラを準備する

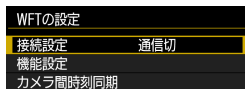
はじめに、レシーバーにするカメラを操作して設定します。複数のレシーバーカメラを使用するときは、すべてのレシーバーカメラに同様の操作を行います。



- 1 【通信機能の設定】を選ぶ
- [4] タブの【通信機能の設定】を選び〈SET〉を押します。



- 2 【WFTの設定】を選ぶ



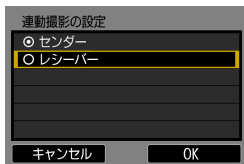
- 3 【接続設定】を選ぶ



- 4 【連動撮影】を選ぶ
- 〈⌚〉を回して、一番下にある【連動撮影】を選びます。

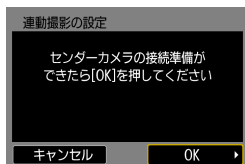


5 「接続ウィザード」を選ぶ



6 「レシーバー」を選ぶ

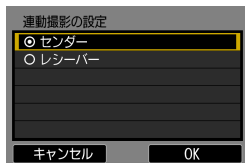
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。表示される下記の画面で待機します。



- 複数のレシーバーカメラを使用するときは、すべてのレシーバーカメラをこの状態にしておきます。
- 設定完了後にレシーバーの追加はできません。もう一度手順1から設定を行う必要があります。

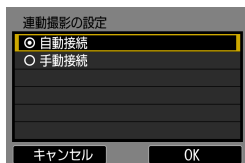
センドーカメラを準備する

センドーにするカメラを操作して設定します。



7 【センドー】を選ぶ

- センドーカメラに、72ページの手順1～5の操作を行い、**【センドー】**を選びます。
- **【OK】**を選んで〈**SET**〉を押すと、次の画面に進みます。

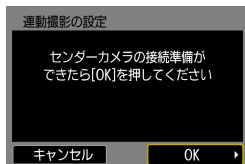


8 【自動接続】を選ぶ

- **【OK】**を選んで〈**SET**〉を押すと、次の画面に進みます。
- 手動で設定するときには、79ページを参照してください。

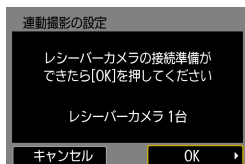
カメラを接続する

レシーバーカメラとセンドーカメラの両方を操作して接続します。



9 レシーバーカメラで【OK】を選ぶ

- すべてのレシーバーカメラで**【OK】**を選びます。
- ➔ センドーカメラの液晶モニターに、検出したレシーバーカメラの台数が表示されます。

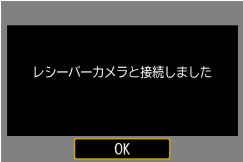


10 センドーカメラで【OK】を選ぶ

- レシーバーカメラの台数を確認してから**【OK】**を選びます。

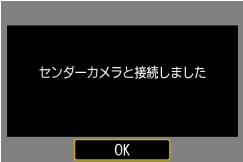
11 すべてのカメラで [OK] を選ぶ

- センダーカメラと、すべてのレシーバーカメラで [OK] を選びます。
- 設定した内容はカメラに保存されます。本機には保存されません。



レシーバーカメラと接続しました

OK



センサーカメラと接続しました

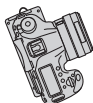
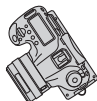
OK

カメラを配置する

レシーバーカメラ



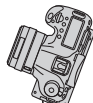
レシーバーカメラ




レシーバーカメラ



セnderカメラ



レシーバーカメラ

- カメラのライブビュー撮影／動画撮影スイッチを〈〉にします。
- セnderカメラから見通しがよく、あいだに障害物のない場所にレシーバーカメラを配置します。
- レシーバーカメラはセnderカメラの半径約100m以内に配置することができます。なお、配置条件や周囲の環境、気象条件などの無線通信状態により、連動撮影できる距離が短くなることがあります。
- セnderカメラのシャッターボタンを半押しすると、レシーバーカメラもシャッターボタン半押し状態になります。セnderカメラのシャッターボタンを全押しすると、レシーバーカメラもシャッターボタン全押し状態になります。
- セnderカメラのリリースタイミングよりも、少し遅れてレシーバーカメラがリリースします（同時には撮影できません）。



- 複数のストロボを使用しないでください。わずかですがカメラごとの撮影タイミングが異なりますので、ストロボの同調ズレや露出不良が起きる可能性があります。
- センダーカメラとレシーバーカメラが、[ミラーアップ撮影] [する] または [する (SETでミラーダウン)] に設定されているときは、連動撮影はできません。

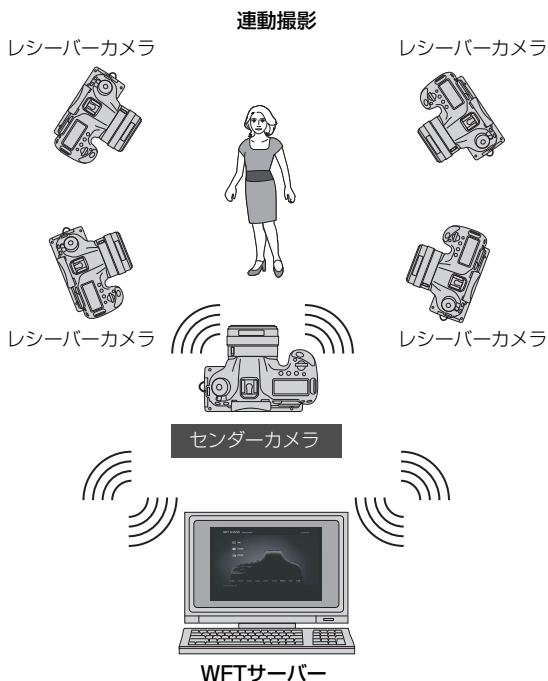


- 連動撮影では、AEロックボタンと絞り込みボタンを押したときにも、シャッターボタン半押しと同じように、ピント合わせと測光が行われます。
- 一度接続を行ったセンサーカメラとレシーバーカメラは、電池交換などを行ってもその設定を記憶しています。
- 連動撮影から外したいレシーバーカメラがある場合は、レシーバーカメラの[通信モード] を[通信切] に設定します。
- WFTシリーズを装着して連動撮影ができるカメラであれば、機種に関係なくレシーバーカメラにすることができます。

WFTサーバーとの連携

WFTサーバーでセnderカメラをリモートリリースして、レシーバーカメラを連動撮影させることができます。また、WFTサーバーからセnderカメラやレシーバーカメラに接続して、ライブビュー映像を見たり、ピント合わせやリモート撮影の設定変更を行うことができます。

- カメラ内のカードに入っている画像の閲覧や、画像の取り込みも行うことができます。
- パソコンの無線LAN機能とOSが、アドホックに対応している必要があります。



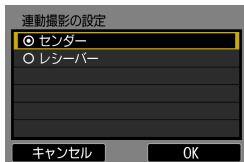
セNDERカメラとレシーバーカメラを接続する

1 レシーバーカメラを準備する

- レシーバーにするカメラに、72 ページの手順1～6の操作を行い、表示される画面で待機します。

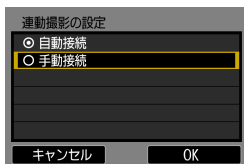
2 センダーカメラを準備する

- センダーにするカメラに、72 ページの手順1～5の操作を行い、[セNDER] を選びます。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



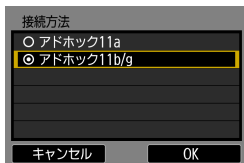
3 [手動接続] を選ぶ

- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



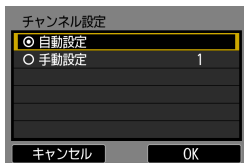
4 接続方法を選ぶ

- パソコンが対応している、無線LANのアドホックモードを選びます。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。



5 チャンネルを設定する

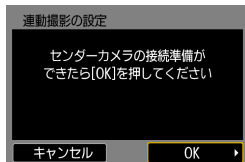
- [手動設定] を設定するときには、セNDERカメラとレシーバーカメラ、パソコンに同じチャンネルを設定します。
- [OK] を選んで〈SET〉を押すと、次の画面に進みます。





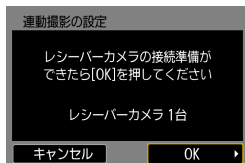
6 暗号化キーを設定する

- 5文字の暗号化キー（パスワード）を設定し、〈MENU〉ボタンを押します。
- パソコンからセNDERカメラに接続するときに、ここで設定した暗号化キーをパソコンに設定します。



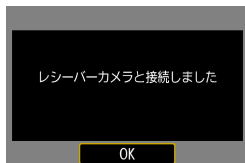
7 レシーバーカメラで [OK] を選ぶ

- すべてのレシーバーカメラで [OK] を選びます。
- ➔ セNDERカメラの液晶モニターに、検出したレシーバーカメラの台数が表示されます。



8 セNDERカメラで [OK] を選ぶ

- レシーバーカメラの台数を確認してから [OK] を選びます。



9 すべてのカメラで [OK] を選ぶ

- セNDERカメラと、すべてのレシーバーカメラで [OK] を選びます。
- 設定した内容はカメラに保存されます。本機には保存されません。



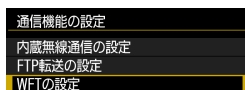
カメラのIPアドレスとSSIDを確認する

パソコンからカメラに接続するために、手順6で表示されるカメラのIPアドレスとSSIDを書きとめておく必要があります。

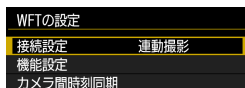


1 [通信機能の設定] を選ぶ

- [4] タブの [通信機能の設定] を選びく(SET)を押します。



2 [WFTの設定] を選ぶ

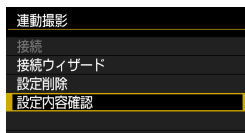


3 [接続設定] を選ぶ

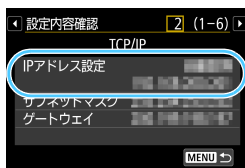


4 [連動撮影] を選ぶ

- く(●)を回して、一番下にある [連動撮影] を選びます。



- 5** **【設定内容確認】を選ぶ**
 → 設定内容が表示されます。



- 6** **設定内容を確認する**
- 〈〉を回してページを切り換えます。
 - IPアドレスとSSIDを書きとめておきます。
 - SSIDはどのカメラも同じです。
 - 設定内容を確認したら、〈MENU〉ボタンを押して確認画面を終了します。



- 同様の手順で、セNDERカメラとすべてのレシーバーカメラの設定内容を確認しておきます。

パソコンに設定するIPアドレスについて

カメラに設定されるIPアドレスは、例えば192.168.1.1～192.168.1.11というように、末尾に1～11の番号が割り当てられます。

そのため、パソコンに設定するIPアドレスは、192.168.1.12というように、末尾に12以上の番号を割り当ててください。

パソコンとカメラを接続する

パソコンに内蔵されている無線LAN機器の検索（サーチ）機能を使用して、パソコンとカメラを接続します。

- 無線LAN機器の検索（サーチ）機能については、パソコンの使用説明書などを参照してください。
- パソコンの無線LAN機能とOSが、アドホックに対応している必要があります。
- あらかじめ【機能設定】画面（p.104）でWFT アカウントを設定してから操作してください。

1 パソコンでカメラを検索（サーチ）する

- パソコンに内蔵されている無線 LAN 機器の検索（サーチ）機能を使用します。

2 カメラに接続する

- 82 ページの手順 6 で書きとめた SSID と同じIDの機器を選択します。
 - パスワード欄には、80 ページの手順 6 で設定した暗号化キーを入力します。
- ➔ パソコンとカメラの接続が完了します。

3 WFTサーバーを表示する

- 操作方法は58ページを参照してください。
- URLの入力欄には、59ページの手順6で書きとめたIPアドレスを入力します。
- URLの入力欄でIPアドレスを変更すると、接続するカメラを変更することができます。
- あらかじめ設定しておいたWFT アカウント（【ログオン名】（ユーザー名）と【パスワード】）を入力してログオンします。

画像の閲覧とリモート撮影

- WFTサーバーの操作方法は55ページを参照してください。
- センダーカメラやレシーバーカメラの IP アドレスを Web ブラウザーに入力することで、接続先のカメラを変更することができます。
- 連動撮影するときは、センサーカメラに接続してください。レシーバーカメラに接続した状態では、レシーバーカメラだけが撮影され、連動撮影にはなりません。
- レシーバーカメラに接続してピント合わせや撮影機能の設定を行い、最後にセンサーカメラに接続して連動撮影するというような使い方ができます。

6

カメラ間時刻同期

センダーカメラの時刻を、最大10台までのレシーバーカメラに設定することができます。無線LAN、有線LANのどちらでも行うことができます。ただし、時刻同期を行っても、センダーカメラとレシーバーカメラで時刻誤差が生じます。

時刻同期の準備

無線LAN

WFT-E7シリーズを装着したカメラを複数台用意しておきます。



セnderカメラ



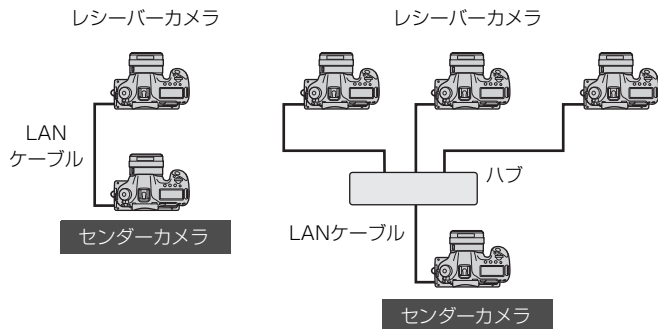
レシーバーカメラ



レシーバーカメラ

有線LAN

WFT-E7シリーズを装着したカメラをLANケーブルで接続します。レシーバーが複数のときは、ハブを介してLANケーブルで接続します。



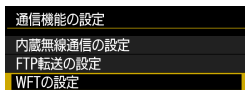
時刻を同期させる

手順1～5は、センサーカメラとレシーバーカメラ共通の操作です。

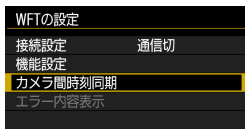


1 [通信機能の設定] を選ぶ

- [4] タブの[通信機能の設定]を選びく(SET)を押します。

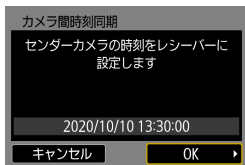


2 [WFTの設定] を選ぶ



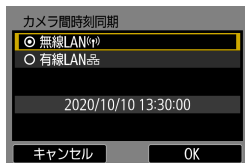
3 [カメラ間時刻同期] を選ぶ

- ほかの機器と接続中のときは[[接続設定]を[通信切]にします]と表示されます。[OK]を選んで接続を終了します。



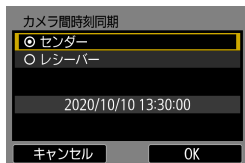
4 [OK] を選ぶ

! カメラ間時刻同期は、必ず同じ機種のカメラ同士で行ってください。
センサーカメラとレシーバーカメラの機種が異なっていると、レシーバーカメラへの時刻同期ができません。



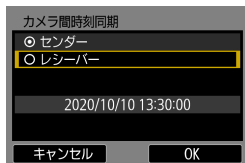
5 LANの種類を選ぶ

- [OK] を選んで <Ⓔ> を押すと、次の画面に進みます。



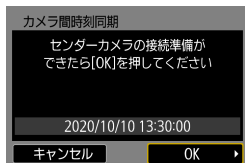
6 セnderカメラを準備する

- [セnder] を選び <Ⓔ> を押します。
 - [OK] を選んで <Ⓔ> を押すと、次の画面に進みます。
- 表示される画面で待機し、次の手順7でレシーバーカメラの準備を行います。

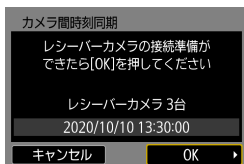


7 レシーバーカメラを準備する

- レシーバーカメラに、前ページの手順1～5を設定し、[レシーバー] を選びます。
- [OK] を選んで <Ⓔ> を押すと、次の画面に進みます。



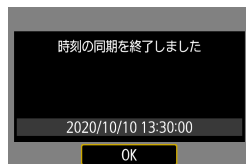
- 表示される画面で [OK] を選びます。
- 複数のレシーバーカメラに時刻を設定するときは、すべてのレシーバーカメラでこの操作を行います。
- セnderカメラの液晶モニターに、検出したレシーバーカメラの台数が表示されます。



8 センダーカメラで [OK] を選ぶ

- レシーバーカメラの台数を確認し、[OK] を選びます。

➡ 時刻の同期が行われます。



- [OK] を選ぶと [WFTの設定] 画面に戻ります。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

7

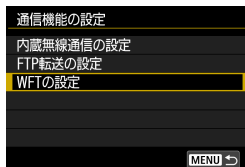
接続の終了と再接続

接続を終了する



1 [通信機能の設定] を選ぶ

- [4] タブの [通信機能の設定] を選ぶ (SET) を押します。



2 [WFTの設定] を選ぶ



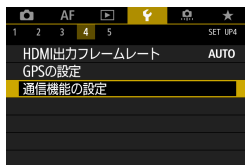
3 [接続設定] を選ぶ



4 [通信切] を選ぶ

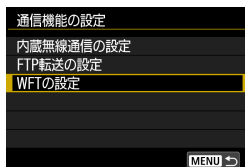
- 接続が終了します。

再接続する

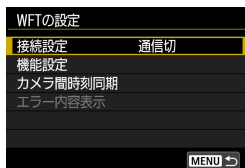


1 [通信機能の設定] を選ぶ

- [F4] タブの [通信機能の設定] を選びく(SET)を押します。



2 [WFTの設定] を選ぶ

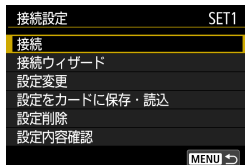


3 [接続設定] を選ぶ



4 [SET*] を選ぶ

- 保存した設定の中から、接続する設定を選びます。



5 [接続] を選ぶ

- ➔ 再接続します。
- 接続先の機器で設定を変更しているときは、カメラに接続するように設定し直してください。

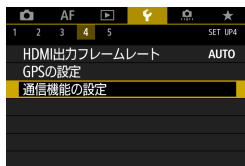
This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

8

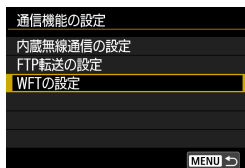
接続設定の確認と操作

接続設定画面を表示する

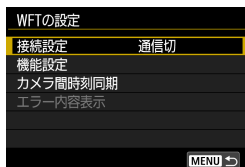
カメラに保存されている接続設定の確認や変更、削除を行います。



- 1 **【通信機能の設定】を選ぶ**
 - [4] タブの **【通信機能の設定】** を選びく(SET)を押します。



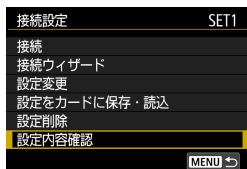
- 2 **【WFTの設定】を選ぶ**



- 3 **【接続設定】を選ぶ**



- 4 **【SET*】を選ぶ**
 - 保存した設定の中から、確認する設定を選びます。



5 設定の確認や変更を行う

- 項目を選んで〈**SET**〉を押し、表示される画面で設定の確認や変更を行います。

【接続】 (p.93)

再接続するときに選びます。確認画面で【OK】を選んで〈**SET**〉を押すと接続します。

【接続ウィザード】

接続ウィザードで接続設定を行います。表示される画面にしたがって接続設定を行ってください。既に設定が保存されているときは、設定が上書き保存されます。

【設定変更】 (p.98)

カメラに保存されている接続設定の内容を変更します。

【設定をカードに保存・読込】 (p.102、103)

カメラに保存されている接続設定をカードに保存したり、カードに保存した接続設定をカメラに読み込むことができます。

【設定削除】

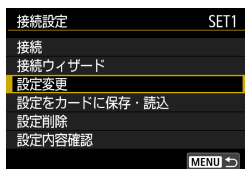
カメラに保存されている接続設定を削除します。確認画面で【OK】を選ぶと、設定が削除されます。

【設定内容確認】

カメラに保存されている接続設定の内容を確認します。【設定内容確認】を選ぶと、設定内容が表示されます。

設定を変更する

接続ウィザードで設定した内容を変更することができます。また、接続ウィザードでは設定できない、FTPサーバーに同名のファイルが転送されたときの設定などを行うことができます。



1 【設定変更】を選ぶ

- 97ページの手順5で表示した【接続設定】画面で【設定変更】を選びます。



2 変更する項目を選ぶ

- 項目を選んで〈SET〉を押すと、設定画面が表示されます。

【セット名】

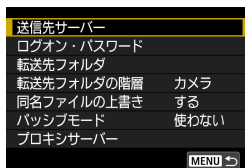
設定に名前を付けることができます。【セット名】を選び、仮想キーボード (p.29) で文字を入力します。

【TCP/IP】



IPアドレスの設定やセキュリティの設定など、ネットワークに関する設定を行います。

【FTPサーバー】



FTPサーバーに接続する設定で表示されます。FTPサーバーに関する設定を行います。

IPsecについて

【TCP/IP】の【セキュリティ】で設定します。

インターネットで暗号化通信を行なうための規格で、無線／有線LAN共に有効なセキュリティ機能です。この機能を使うためには、パソコンのネットワーク設定でIPsec機能を有効にする必要があります。本機のIPsecは、トランスポートモードのみのサポートで、暗号方式は「3DES」または「AES」、認証方式は「SHA-1」を使用しています。なお、設定画面の【接続先のアドレス】には、接続するパソコンのIPアドレスを設定してください。

転送先フォルダの階層について

〔FTPサーバー〕の〔転送先フォルダの階層〕で設定します。

〔カメラ〕を選択すると、転送先のルートフォルダ内に、カメラと同じ「A/DCIM/100EOS5D」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。なお、〔転送先フォルダ〕の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に「A/DCIM/100EOS5D」というようなフォルダ階層を自動作成して、その中に画像を保存します。

〔初期設定〕を選択すると、転送先のルートフォルダを開いたところに画像を保存します。なお、〔転送先フォルダ〕の設定でルートフォルダの下にフォルダを作成しているときは、そのフォルダの中に画像を保存します。

同名ファイルの上書きについて

〔FTPサーバー〕の〔同名ファイルの上書き〕で設定します。

〔同名ファイルの上書き〕を〔しない〕に設定している場合

FTPサーバーの保存先フォルダに同名ファイルが存在する場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きの数字（例：IMG_0003_1.JPG）が付けられて保存されます。

転送失敗画像を再転送する場合

同名ファイルの上書きをする設定で、転送失敗画像を再転送すると、上書き保存されない場合があります。この場合は、ファイル名の最後にアンダーバー付きのアルファベットと数字（例：IMG_0003_a1.JPG）が付けられて保存されます。

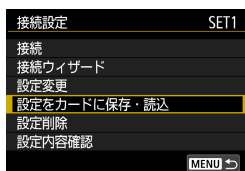
パッシブモードについて

[FTPサーバー] の [パッシブモード] で設定します。
ネットワーク環境の中にファイアウォールが設置されているときに設定します。「エラー 41：FTPサーバーに接続できません」という状態のときに、パッシブモードを [使う] 設定にすると、FTPサーバーに接続できることがあります。

設定内容の保存と読み込み

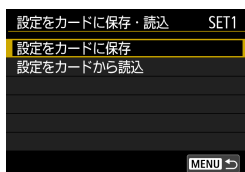
接続設定をカードに保存して、ほかのカメラに適用することができます。また、ほかのカメラで設定した接続設定を、使用するカメラに適用することができます。

設定内容を保存する



1 【設定をカードに保存・読み込み】を選ぶ

- 97ページの手順5で表示した「接続設定」画面で「設定をカードに保存・読み込み」を選びます。



2 【設定をカードに保存】を選ぶ

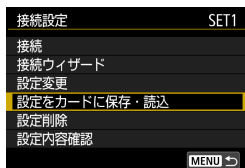


3 【OK】を選ぶ

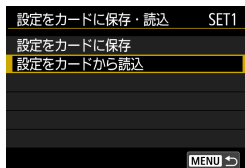
- ファイル名は、WFTNPF01～10.NIFまでカメラが自動的に設定します。[INFO] ボタンを押すと、ファイル名を任意に設定することができます。
- ➔ カードに設定内容が保存されます。
- 設定内容のファイルは、カードを開いたところ（ルートディレクトリ上）に保存されます。

❗ 1つのカードにカメラで保存できる設定内容のファイルは、10個までです。11個以上カードに保存する場合は、別のカードに保存してください。

設定内容を読み込む



- 1 **「設定をカードに保存・読込」を選ぶ**
- 97ページの手順5で表示した「接続設定」画面で「設定をカードに保存・読込」を選びます。



- 2 **「設定をカードから読込」を選ぶ**



- 3 **設定ファイルを選ぶ**
- ➔ 使用するネットワーク環境に合った設定ファイルを選びます。



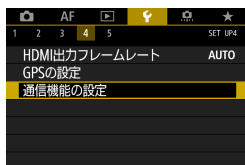
- 4 **「OK」を選ぶ**
- ➔ 選択しているセット番号に、設定ファイルの内容が読み込まれます。

❗ パソコンなどで、カードに設定内容のファイルを11個以上保存しても、カメラの読み込み画面では10個までしか表示できません。11個以上読み込む場合は、先に読み込んだ設定内容のファイルが入っていないカードを使用して、残りの設定内容のファイルを読み込んでください。

機能設定画面について

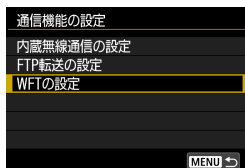
【機能設定】画面ではFTP転送やWFTserverの設定、節電機能の設定、MACアドレスの確認を行うことができます。

機能設定画面を表示する



1 【通信機能の設定】を選ぶ

- [4] タブの【通信機能の設定】を選びく(SET)を押します。



2 【WFTの設定】を選ぶ

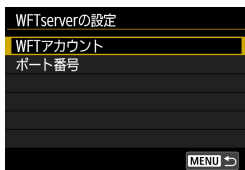


3 【機能設定】を選ぶ

- 【機能設定】画面が表示されます。



【WFTserverの設定】



WFTserver に関する設定を行います。WFT アカウントのほかにポート番号の設定を行うことができます。

- WFT アカウントの設定方法は 56 ページを参照してください。
- 通常、ポート番号（80）の変更は必要ありません。

【節電機能】

● FTP転送

【使う】に設定したときは、一定期間転送を行わないと、FTPサーバーからログオフしてLANを休止します。画像転送が行われる状態になると、自動的に再接続します。

● EOSUtility/WFTserver

一定期間通信を行わないと、通信速度を落として節電します。設定に関わらず、節電機能は有効です。

● 連動撮影

設定に関わらず、節電機能は無効です。

【MACアドレス】

本機のMACアドレスを確認することができます。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

9

トラブルシューティング



一部のパソコンとの組み合わせにおいて、アドホック接続での転送速度が極端に遅くなる場合があります。詳しくは、弊社お客様相談窓口にお問い合わせください。

エラー表示の対応

カメラの液晶モニターに本機のエラーが表示されたときは、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。エラー発生時は本機の〈LAN〉ランプが点滅し、表示パネルにエラー番号が表示されます。なお、エラー内容は、メニューの[WFTの設定] → [エラー内容表示]でも確認できます。

下記のエラー番号をクリックすると該当ページにジャンプします。

11 (p.109)	12 (p.109)			
21 (p.110)	22 (p.111)	23 (p.112)	24 (p.112)	
41 (p.114)	42 (p.116)	43 (p.116)	44 (p.116)	45 (p.117)
46 (p.118)	47 (p.118)			
61 (p.119)	62 (p.119)	63 (p.120)	64 (p.120)	65 (p.121)
66 (p.121)	67 (p.122)	68 (p.122)	69 (p.122)	
71 (p.123)	72 (p.123)	73 (p.123)		
81 (p.123)	82 (p.124)			
91 (p.124)				

以下のエラーが表示されたときは



本機の表示パネルに「ERROR 01」が表示されたときは、インターフェースケーブルを本機とカメラにしっかり接続しなおしてください。

* このエラーは、カメラの液晶モニターには表示されません。

* このエラーは、本機に対応していないカメラに接続したときにも表示されます。

【再転送待機中...】が表示されたときは



FTP転送で撮影後の画像転送に失敗すると、左図の画面が表示されます。また、本機の表示パネルにエラー番号が表示され、〈LAN〉ランプが赤色に点滅します。エラー番号を確認し、エラーの原因を取り除いてください。

エラーの原因が取り除かれると、転送に失敗した画像が自動的に再転送されます。

なお、転送をキャンセルしたり、カメラの電源を切った時は、自動再転送されません。44ページを参照して転送してください。

11：接続先が見つかりません

- **【EOSUtility】の場合、EOS Utilityは起動していますか？**
- ➡ EOS Utilityを起動して、再度接続操作を行ってください (p.52)。
- **本機とアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
- ➡ 暗号化の認証方式が【オープン】の設定で、暗号キーを間違えると、このエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーを本機に設定してください (p.28)。

12：接続先が見つかりません

- **接続先の機器やアクセスポイントの電源は入っていますか？**
- ➡ 接続先の機器やアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

本機の確認内容

- **本機の設定がIPアドレス【自動設定】になっています。この設定で間違いありませんか？**
 - ➔ DHCPサーバーを使用していない場合は、本機をIPアドレス【手動設定】にして設定を行ってください（p.132）。

DHCPサーバーの確認内容

- **DHCPサーバーの電源は入っていますか？**
 - ➔ DHCPサーバーの電源を入れてください。
- **DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕がありますか？**
 - ➔ DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。
 - ➔ DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。
- **DHCPサーバーは正常に機能していますか？**
 - ➔ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- **接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？**
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定してください（p.128、132）。
 - ➔ 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。



エラー 20番台の対応について

エラー 21～24が表示された場合は、以下の確認も行ってください。

本機とアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？

- ➔ 暗号化の認証方式が【オープン】の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーを本機に設定してください（p.28）。

22：DNS サーバーから応答がありません

本機の確認内容

- 本機の設定がDNSアドレス [手動設定] になっています。この設定で間違いありませんか？
 - ➔ DNSサーバーを使用していない場合は、本機をDNSアドレス [使わない] の設定にしてください (p.132)。
- 本機に設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？
 - ➔ 使用する DNS サーバーと同じ IP アドレスを本機に設定してください (p.128、132)。

DNSサーバーの確認内容

- DNSサーバーの電源は入っていますか？
 - ➔ DNSサーバーの電源を入れてください。
- DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか？
 - ➔ DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。
- DNSサーバーは正常に機能していますか？
 - ➔ DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
 - ➔ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定してください (p.128、132)。
 - ➔ 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23： ネットワーク上に同じ IP アドレスの機器が存在します

本機の確認内容

- **本機と同じネットワークに接続している機器が、本機と同じ IP アドレスを使用していないですか？**
 - ➔ 本機の IP アドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器と IP アドレスが重複しないようにしてください。または、IP アドレスが重複している他の機器の IP アドレスを変更してください。
 - ➔ DHCP サーバーを使用するネットワーク環境で、本機が IP アドレス [手動設定] の設定になっているときは、IP アドレス [自動設定] の設定にしてください (p.30)。

24： プロキシサーバーから応答がありません

本機の確認内容

- **本機の設定がプロキシサーバー [使う] の設定になっています。この設定で間違いありませんか？**
 - ➔ プロキシサーバーを使用していない場合は、プロキシサーバー [使わない] の設定にしてください (p.35)。
- **本機に設定しているプロキシサーバーの [アドレスの設定] と [ポート番号] は、プロキシサーバーと同じ設定になっていますか？**
 - ➔ プロキシサーバーと同じアドレス、ポート番号を本機に設定してください (p.35)。
- **本機のプロキシサーバーの設定内容は、DNS サーバーに正しく設定されていますか？**
 - ➔ 設定したプロキシサーバーの [アドレス] が、DNS サーバーに正しく設定されているか確認してください。

プロキシサーバーの確認内容

- **プロキシサーバーの電源は入っていますか？**
 - ➡ プロキシサーバーの電源を入れてください。
- **プロキシサーバーは正常に機能していますか？**
 - ➡ プロキシサーバーの設定を確認して、プロキシサーバーとして正常に機能しているか確認してください。
 - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、プロキシサーバーのアドレスの設定とポート番号を聞いて、その内容を本機に設定してください。

ネットワーク全体の確認内容

- **接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？**
 - ➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定してください。
 - ➡ 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

41：FTP サーバーに接続できません

本機の確認内容

- 本機に設定しているFTPサーバーのIPアドレスは合っていますか？
➔ FTPサーバーと同じIPアドレスを本機に設定してください (p.34)。
- 本機とアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
➔ 暗号化の認証方式が「オープン」の設定で、暗号キーを間違えるとこのエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーを本機に設定してください (p.28)。
- 本機に設定しているFTPサーバーの「ポート番号設定」は、FTPサーバーで設定しているポート番号と合っていますか？
➔ ポート番号は通常21で、本機とFTPサーバーとも同じポート番号を設定します。FTPサーバーのポート番号を本機に設定してください (p.35)。
- 本機のFTPサーバーの設定内容は、DNSサーバーに正しく設定されていますか？
➔ 設定したFTPサーバーの「サーバー名」が、DNSサーバーに正しく設定されているか確認してください。また、使用するFTPサーバーの「サーバー名」が、本機に間違いなく設定されているか確認してください (p.34)。

FTPサーバーの確認内容

● FTPサーバーは正常に機能していますか？

- ➡ パソコンをFTPサーバーとして機能するように設定してください。
- ➡ ネットワーク管理者がいるときは、FTPサーバーのアドレスとポート番号を聞いて、その内容を本機に設定してください。

● FTPサーバーの電源は入っていますか？

- ➡ FTPサーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

● FTPサーバーに設定しているIPアドレスは、本機に設定しているFTPサーバーの【アドレス】と合っていますか？

- ➡ FTPサーバーに設定しているIPアドレスと、本機に設定しているFTPサーバーのIPアドレスを、同じ設定にしてください (p.34)。

● セキュリティソフトウェアのファイアウォールを有効にしていますか？

- ➡ セキュリティソフトウェアによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
- ➡ 本機の設定で【パッシブモード】を【使う】にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります (p.101)。

● ブロードバンドルーターを介してFTPサーバーに接続していませんか？

- ➡ ブロードバンドルーターによっては、ファイアウォールでFTPサーバーへの接続制限をかけている可能性があります。ファイアウォールの設定を変更して、FTPサーバーに接続できるようにしてください。
- ➡ 本機の設定で【パッシブモード】を【使う】にすると、FTPサーバーに接続できる場合があります (p.101)。

ネットワーク全体の確認内容

- 接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？
- ➔ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容を本機に設定してください (p.128、132)。
- ➔ 本機を含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

42：FTP サーバーから接続を拒否されました

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーが、特定のIPアドレスのみ接続を許可する設定になっていませんか？
- ➔ [設定内容確認] (p.97) で本機のIPアドレスを確認して、FTPサーバーの設定を変更してください。

43：FTP サーバーに接続できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーで設定している最大接続数を超えて接続していませんか？
- ➔ FTP サーバーに接続しているネットワーク機器を少なくするか、FTPサーバーの設定で最大接続数を増やしてください。

44：FTP サーバーから切断できません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

- FTP サーバーに対する接続解除が、何らかの理由でうまくいかないときに表示されるエラーです。
- ➔ FTPサーバーとカメラの電源を入れなおしてください。

45： FTP サーバーにログオンできません。サーバーからのリプライコードがエラーを示しています。

本機の確認内容

- 本機に設定している [ログオン名] は正しいですか？
 - ➔ FTPサーバーにログオンするログオン名を確認してください。また、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン名を本機に設定してください (p.35)。
- 本機に設定している [ログオン・パスワード] は正しいですか？
 - ➔ FTP サーバーにログオン・パスワードが設定されているときは、大文字、小文字の使い分けも確認して、正しいログオン・パスワードを本機に設定してください (p.35)。

FTPサーバーの確認内容

- FTP サーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？
 - ➔ FTP サーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
- FTPサーバーで転送先に指定されているフォルダの名称は、すべてASCII文字で構成されていますか？
 - ➔ フォルダ名をASCII文字で構成してください。

46： データセッションに対し、FTP サーバーからのリプライコードがエラーを示しています

FTPサーバーの確認内容

- FTPサーバーが接続を切断しました。
➔ FTPサーバーを再起動してください。
- FTP サーバーのファイルアクセス権は、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定になっていますか？
➔ FTP サーバーのファイルアクセス権を、読み取り／書き込み／ログアクセス可能な設定にしてください。
- FTPサーバーの保存先フォルダにアクセス権を設定していませんか？
➔ 本機から転送された画像が保存できるよう、FTPサーバーにある保存先フォルダのアクセス権を設定してください。
- FTPサーバーの電源は入っていますか？
➔ FTP サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。
- FTPサーバーのハードディスクがいっぱいになっていませんか？
➔ ハードディスクの空き容量を増やしてください。

47： FTP サーバーから、画像ファイルの転送完了通知を取得できませんでした

- FTP サーバーからの転送完了通知を、何らかの理由で受けられなかったときに表示されるエラーです。
➔ FTP サーバーとカメラの電源を入れなおし、画像を再度転送してください。

61： 同じ SSID の無線 LAN ネットワークが見つかりません

- アクセスポイントのアンテナと本機の間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？
- ➔ アクセスポイントのアンテナを、本機からよく見える場所に移動させてください。

本機の確認内容

- 本機にアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？
- ➔ アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDを本機に設定してください (p.27)。

アクセスポイントの確認内容

- アクセスポイントの電源は入っていますか？
- ➔ アクセスポイントの電源を入れてください。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用している本機のMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
- ➔ 使用している本機のMACアドレス (p.105) をアクセスポイントに登録してください。

62： 無線 LAN 端末からの応答がありません

本機の確認内容

- 本機が、インフラストラクチャーで通信する設定になっていませんか？
- ➔ 本機を、アドホックで通信する設定にしてください。

アクセスポイントの確認内容

- アドホックで通信するためのアクセスポイントが近くにありますか？
- ➔ アドホックに設定したアクセスポイントを、本機の近くに用意してください。

63： 無線 LAN の認証に失敗しました

- 本機とアクセスポイントで、同じ認証方式を設定していますか？
 - ➔ 本機で設定できる認証方式は、[オープン]、[共有キー]、[WPA/WPA2-PSK] です (p.23)。
- 本機とアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？
 - ➔ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーを本機に設定してください (p.28)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用している本機のMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - ➔ 本機のMACアドレス (p.105) をアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [機能設定] 画面 (p.104) で確認できます。

64： 無線 LAN 端末に接続できません

- 本機とアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
 - ➔ 本機で設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです (p.23)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用している本機のMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
 - ➔ 使用している本機のMACアドレス (p.105) をアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [機能設定] 画面 (p.104) で確認できます。

65：無線 LAN の接続が切れました

- **アクセスポイントのアンテナと本機の間、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**
- ➡ アクセスポイントのアンテナを、本機からよく見える場所に移動させてください。
- **何らかの理由で、無線 LAN の接続が切れ、再接続できない状態になっています。**
- ➡ アクセスポイントにほかの端末からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11n/g/b（2.4GHz帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます。

66：無線 LAN の暗号キーが違います

- **本機とアクセスポイントで、同じ認証用の暗号キーを設定していますか？**
- ➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用の暗号キーを本機とアクセスポイントに設定してください（p.28）。
なお、暗号化の認証方式が「オープン」の場合は、「エラー 41：FTP サーバーに接続できません」が表示されます。

67： 無線 LAN の暗号方式が違います

- 本機とアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？
→ 本機で設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです (p.23)。
- MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用している本機のMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？
→ 使用している本機のMACアドレス (p.105) をアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは [機能設定] 画面 (p.104) で確認できます。

68： 無線 LAN 端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

- アクセスポイントのWPS (Wi-Fi Protected Setup) ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押しつづけましたか？
→ WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押しつづけてください。
- アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？
→ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69： 複数の無線 LAN 端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

- ほかのアクセスポイントがWPS (Wi-Fi Protected Setup) のPBC方式 (プッシュボタン接続方式) で接続操作を行っています。
→ しばらく待ってから接続操作を行うか、PIN方式 (ピンコード接続方式) で接続操作を行ってください (p.25)。

71： レシーバーカメラと接続できませんでした

- レシーバーカメラの接続操作を正しく行っていますか？
➡ 正しい手順でレシーバーカメラを操作してください (p.72、73)。
- レシーバーカメラとセNDERカメラが離れすぎていませんか？
➡ レシーバーカメラをセNDERカメラに近付けてください。

72： セNDERカメラと接続できませんでした

- セNDERカメラの接続操作を正しく行っていますか？
➡ 正しい手順でセNDERカメラを操作してください (p.74、75)。
- セNDERカメラとレシーバーカメラが離れすぎていませんか？
➡ セNDERカメラをレシーバーカメラに近付けてください。

73： 時刻の同期に失敗しました

- セNDERカメラとレシーバーカメラの接続操作を正しく行っていますか？
➡ 正しい手順でセNDERカメラとレシーバーカメラを操作してください (p.87～89)。
- セNDERカメラとレシーバーカメラが離れすぎていませんか？
➡ セNDERカメラとレシーバーカメラを近付けてください。

81： 有線 LAN の接続が切れました

- LANケーブルはしっかり接続されていますか？
➡ 本機からサーバーにかけての LAN ケーブルを接続しなおしてください。また、ケーブルが断線している可能性もありますので、別のケーブルを接続してみてください。
- ハブやルーターの電源は入っていますか？
➡ ハブやルーターの電源を入れてください。
- サーバーの電源は入っていますか？
➡ サーバーの電源を入れてください。省電力モードで電源が切れている可能性もあります。

82：ワイヤレスファイルトランスミッターが接続されていません

- 本機は正しく取り付けられていますか？
 - ➔ 本機とカメラが正しく取り付けられているか確認してください (p.15)。

91：その他のエラー

- エラー 11～82以外の異常が発生しました。
 - ➔ カメラの電源スイッチを入れ直してください。

無線機能での注意事項

無線機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」、「映像が滑らかに表示されない」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

アクセスポイント、またはアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、撮影している部屋に設置してください。
- 本機との間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響で無線LANの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。また、有線LANにすると問題を解消することができます。

- 本機のIEEE 802.11b/g/nで、2.4GHz帯の電波を使用して無線LANの通信を行っているときは、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォンなどを使うと無線LANの通信速度が遅くなります。

ワイヤレストランスミッターを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに、ワイヤレストランスミッターを取り付けたカメラが複数接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに、ワイヤレストランスミッターを取り付けたカメラが複数接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11n/g/b (2.4GHz帯) のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、無線LANのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7/12」、「3/8/13」というように4チャンネル分、間を開けてください。
IEEE 802.11n/a (5GHz帯) が使用できるときは、IEEE 802.11n/a (5GHz帯) に切り換えて、異なるチャンネルを設定してください。

セキュリティについて

セキュリティに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- 通信の傍受
悪意ある第三者によって無線LANの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- ネットワークへの不正アクセス
悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

● Windowsの場合

Windows の [コマンドプロンプト] を開き、ipconfig /all と入力して〈Enter〉キーを押します。

パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

● Mac OSの場合

Mac OS Xの [ターミナル] を開き、ifconfig -aと入力して〈Return〉キーを押します。[en0] 項目 [inet] の ***.***.***.*** がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

*[ターミナル] については、Mac OS Xのヘルプを参照してください。

なお、132ページでカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例) 192.168.1⑩

10

資料

キャプションの作成と登録

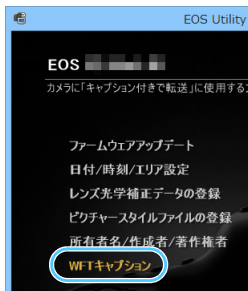
『キャプション付きで転送する』(p.48)のページで説明した、キャプションを作成してカメラに設定します。キャプションの作成と登録は、EOS Utilityがインストールされたパソコンを使用して行います。

51ページからの「EOS Utilityでリモート操作」を参照して、LAN接続でEOS Utilityが使えるようにしておいてください。



1 EOS Utilityを起動して【カメラの設定】を選ぶ

→ カメラの設定画面が表示されます。



2 【WFTキャプション】を選ぶ

→ キャプション作成画面が表示されます。

3 キャプションを入力する

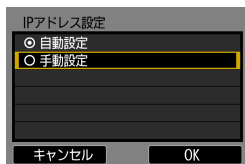
- ASCII（アスキー）文字を 31 文字まで入力できます。
- **「設定取得」** を選ぶと、カメラに設定されているキャプションデータを取得します。

4 キャプションをカメラに設定する

- **「カメラに登録」** を選ぶと、作成したキャプションがカメラに設定されます。

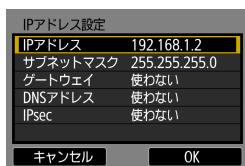
IPアドレスを手動で設定する場合

IPアドレス設定を手動で行います。なお、表示される項目は通信方法によって異なります。



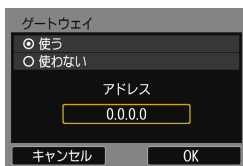
1 【手動設定】を選ぶ

- [OK] を選んで <SET> を押すと、次の画面に進みます。



2 設定する項目を選ぶ

- 項目を選んで <SET> を押すと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイ、DNSアドレス、IPsec を使う場合は、[使う] を選んでから [アドレス] を選び、<SET> を押します。




3 数値を入力する

- <左向き矢印> を回して上側の入力場所を選び、<右向き矢印> を回して入力する数値を選びます。<SET> を押すと選んだ数値が入力されます。
- <MENU> ボタンを押すと、入力を確認して手順2の画面に戻ります。

IPアドレス設定	
IPアドレス	192.168.1.3
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	使わない
DNSアドレス	162.168.11.1
IPsec	使わない
キャンセル OK	

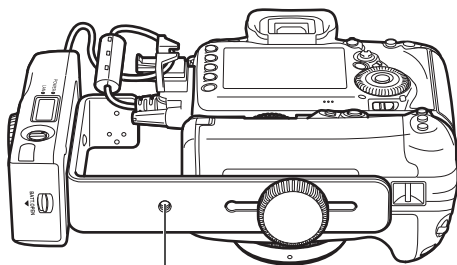
4 【OK】を選ぶ

- 必要な項目の設定が完了したら【OK】を選び、〈〉を押します。
- ➔ 通信方法に応じた設定画面が表示されます。
- 設定する内容が分からない場合は、『ネットワークの設定を確認する』（p.128）を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

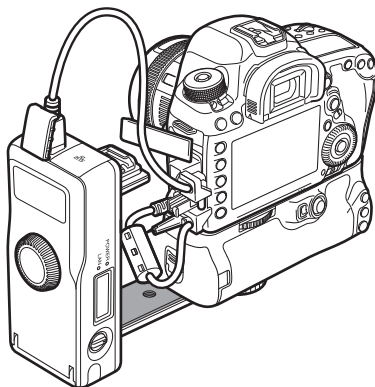
ブラケット（別売）を使う

別売のアクセサリブラケットAB-E1は、バッテリーグリップと本機を併用するときなどに使用します。

図のように本機とカメラをブラケットに取り付けます。



三脚ねじ穴



主な仕様

■ 型式

型式.....有線LANとIEEE802.11a、IEEE802.11b、IEEE802.11g、IEEE802.11n無線LAN対応・画像転送アクセサリ（IPsec対応）。
Bluetooth機能（GPS機器接続用）内蔵
* EOS 5D Mark IVではBluetooth接続機能は使用できない

■ 無線LAN

準拠規格.....IEEE802.11a
IEEE802.11b
IEEE802.11g
IEEE802.11n
伝送方式.....DS-SS変調方式（IEEE802.11b）
OFDM変調方式（IEEE802.11g、IEEE802.11a、IEEE802.11n）
通信距離.....約150m
* 送受信アンテナ間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合
* アクセスポイントに高性能大型アンテナを設置している場合

送信周波数（中心周波数）

タイプ	周波数	チャンネル
WFT-E7A (Ver.2)	2412~2462MHz	1~11ch
	5180~5320MHz	36~64ch
	5745~5825MHz	149~165ch
WFT-E7B (Ver.2)	2412~2472MHz	1~13ch
	5180~5320MHz	36~64ch
	5500~5700MHz	100~140ch
WFT-E7C (Ver.2)	2412~2472MHz	1~13ch
	5745~5805MHz	149~161ch
WFT-E7D (Ver.2)	2412~2462MHz	1~11ch
	5280~5320MHz	56~64ch
	5500~5700MHz	100~140ch
WFT-E7E (Ver.2)	2412~2472MHz	1~13ch
	5180~5320MHz	36~64ch
	5500~5700MHz	100~140ch
	5745~5825MHz	149~165ch

主な仕様

接続方法	インフラストラクチャーモード、アドホックモード * Wi-Fi Protected Setup対応
セキュリティ	認証方式：オープン、共有キー、WPA/WPA2-PSK 暗号化：WEP、TKIP、AES

■ 有線LAN

Ethernet	10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T
----------------	--------------------------------

■ LAN機能

FTP 転送	撮影時自動転送 画像選択/転送 SET ボタンで転送 キャプション付きで転送 * FTPS対応
EOS Utility	EOS Utilityのリモートコントロール機能を有線LAN、無線LANで実現
WFT サーバー	詳細撮影/簡易撮影 画像の閲覧/取り込み
連動撮影	センダーカメラに連動して、10台のレシーバーカメラが撮影可能 通信距離約100m（無線LANのみ）
カメラ間時刻同期	センダーカメラの時刻を10台のレシーバーカメラに設定可能 * カメラ間時刻同期は、必ず同じ機種のカメラ同士で行う

■ 電源

使用電池	バッテリーパックLP-E6N（またはLP-E6）1個使用
電池チェック	自動

■ 撮影可能枚数の目安

[撮影時自動転送] 時の撮影可能枚数の目安 約 [枚]

LAN	常温 (23℃)	低温 (0℃)
無線LAN	2400	2300
有線LAN	2200	2200

* フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、[節電機能：使う] 設定時、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による

* 無線LANで連続して画像転送を行うと、転送可能枚数が少なくなる

■ 大きさ・質量

大きさ 134.1（幅）×31.1（高さ）×62.2（奥行）mm

質量 約165g（本体のみ）

■ 動作環境

使用可能温度 0℃～+40℃

使用可能湿度 85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準、またはCIPA試験基準/ガイドラインによります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

商標について

- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴおよびWi-Fi Protected SetupマークはWi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

索引

英数字

1枚ずつ転送	39
ACアダプター	14
AES	23
DHCPサーバー	30
DNSアドレス	132
DNSサーバー	128
EOS Utility	19, 51, 54
ESS-ID	27
Ethernet用RJ-45端子	10
FTPS	34
FTPサーバー	33
FTP転送	18, 33
FTPモード	34
IEEE 802.11n/a/g/b	別紙
IPsec	99
IPアドレス	30, 34, 132
JPEG	42
LANケーブル	22
MACアドレス	23, 52, 105
PBC方式	24
PIN方式	25
RAW	42
RAW+JPEG	42
SETボタンで転送	41
SSID	27
TCP/IP	98
TKIP	23
URL	59
Webブラウザ	19, 59
WEP	23
WFTserver	19, 55
WFTサーバー	19, 55
WPA/WPA2-PSK	23

WPS (Wi-Fi Protected Setup)	23
----------------------------------	----

あ

アカウント	56, 105
アドホック	79
暗号化の設定	23
暗号キー	28
一括転送	44
エラー	108
エラー番号	10
オープン	23

か

画像転送	33
画像を閲覧	61
家庭用電源	14
カメラ間時刻同期	20, 85
簡易撮影	68
キーの書式と長さ	28
キーボード	29
機能設定	104
キャプション	48, 130
共有キー	23
ゲートウェイ	132

さ

再接続	93
再転送	43
撮影後に転送	44
サブネットマスク	128, 132
自動転送	39
使用可能地域	別紙
詳細撮影	63
ステルス機能	23
接続ウィザード	21
設定内容	102

保存.....	102
読み込み.....	103
節電機能.....	105
セット名.....	98
センダーカメラ.....	74, 88

た

チャンネル.....	別紙
通信マーク.....	10
転送先フォルダ.....	49, 100
転送された画像.....	49
転送履歴.....	45
電池.....	12
電池チェック.....	13
動画.....	62, 67, 69
同名ファイル.....	100
トラブルシューティング.....	107

な

認証方式.....	23, 99
ネットワーク.....	17

は

パスワード.....	56
パッシブモード.....	101
バッテリー.....	12
表示パネル.....	10
ピンコード接続方式.....	25
フォルダ.....	36, 49
フォルダ指定.....	36
プッシュボタン接続方式.....	24
ブラウザ.....	19, 59
プロキシサーバー.....	35
ペアリング.....	52
ポート番号.....	35
保存先.....	36, 49

ま

まとめて転送.....	44
無線LAN規格.....	別紙

や

有線LAN.....	22
------------	----

ら

リモート撮影.....	54, 63, 68
ルーター.....	30
レシーバーカメラ.....	72, 88
連動撮影.....	71
ログオン方法.....	35
ログオン名.....	56

わ

ワイファイ プロテクトッド	
セットアップ.....	23

This image shows a single page from a notebook or ledger. It features approximately 20 evenly spaced horizontal grey lines across its entire width, providing a template for writing. The margins are uniform on all sides, and there are no vertical lines or other markings present.

